

第1 市民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する目標を達成するためとるべき措置

2 医療の質の向上

(1) 医療需要の変化、医療の高度化への対応

中期目標	医療スタッフの知識の習得や技術の向上、診療科の再編などによる診療体制の充実を図るとともに、医療機器の整備・更新等を計画的に進めることなどにより、医療需要の変化や医療の高度化に的確に対応した医療を提供すること。
------	--

中期計画	令和2年度	地方独立行政法人広島市立病院機構による自己評価	市長による評価		
	年度計画	評価理由等	記号	評価理由・コメント等	記号
<u>2 医療の質の向上（大項目）</u> (1) 医療需要の変化、医療の高度化への対応 医療需要の変化、医療の高度化に的確に対応した医療が提供できるよう、医療スタッフの知識の習得や技術の向上、診療科の再編などによる診療体制の充実を図るとともに、計画的な医療機器の整備・更新を進めます。	<u>2 医療の質の向上（大項目）</u> (1) 医療需要の変化、医療の高度化への対応				
	<u>ア 医療スタッフの知識の習得や技術の向上（小項目）</u> ・院外の学会・研修会等への参加機会を確保するとともに院内研修の充実	<p>【院外の学会・研修会等への参加機会の確保】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 業務に関わる院外の学会や研修会等へ、法人負担での参加機会を確保した。 <p>【院内研修の充実】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 医療スタッフが日々高度化する医療知識、技術を身に付けていくため、各病院において、がん研修会やがんセミナー、基礎看護技術研修会、臨床検査研修会など専門分野に関する研修会、多職種を対象とした感染対策研修会、リスクマネジメント研修会等を実施した。 ○ 4病院で保険診療に関する研修を行った。 ○ 安佐市民病院では、ロボット支援手術を行うために、新型コロナウイルス感染症の感染対策を取りながら、必要な術者・助手等の研修を行い、令和2年度から子宮良性疾患手術の保険適用を開始した（子宮良性疾患10例）。今後、食道がん、肺がん、縦隔腫瘍に対しても手術可能となるように研修会への参加、指導医を招へいしてのロボット支援手術の実施範囲の拡大に取り組 	3	年度計画を順調に実施しているため、「3」と評価した。	3

中期計画	令和2年度	地方独立行政法人広島市立病院機構による自己評価	市長による評価		
	年度計画	評価理由等	記号	評価理由・コメント等	記号
	<ul style="list-style-type: none"> ・新規採用職員の合同研修会の開催 ・看護師を対象とした市立病院間の交流研修の実施 ・キャリア開発ラダーを活用した看護師の質の向上（広島市民病院・安佐市民病院） 	<p>む。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 舟入市民病院では、医療安全や感染対策、倫理研修等については従来、集合研修で行っていた。令和2年度は、新型コロナウイルス感染対策として、基本的にはパソコンからの閲覧とし、研修対象者全員で閲覧できるよう工夫した。集合研修を行う場合は、最大40人までに制限して実施した。 ○ リハビリテーション病院では、個人情報・プライバシー、救命救急、感染管理、ストレスコントロールと医療安全、認知症ケア、排尿ケアなどについての研修を概ね月1回から2回の割合で実施した。 <p>【合同研修会の開催】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 職場への円滑な適応を図るため、新規採用職員の合同研修は、新型コロナウイルス感染症の拡大に伴い、開催ができなかったが、職員倫理については、各病院において研修を実施するとともに、研修項目の視聴用の動画を作成し、今後、集合研修の開催が困難な場合に活用することとした。 <p>【市立病院間の交流研修の実施】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 各病院の看護師の知識の習得や技術の向上を図るために、4病院間の交流研修計画を策定した。 <p>【キャリア開発ラダーを活用した看護師の質の向上】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 広島市民病院では、令和2年度のジェネラリストラダー新規取得が、220人で、合計938人(88.2%)が取得している。マネジメントラダー新規取得者が16人、合計214人(82.7%)が取得している。 ○ 安佐市民病院では、キャリアラダーレベル毎の育成したい看護師像を明確にし、必須研修・専門別研修を企画・実施し、学んだ知識を実践(OJT)で活かせる環境を整備した。高度急性期病院に必要な看護実践力、リーダーシップや多職種との連携、退院後の生活を支える視点を持ち、後輩指導のためのリフレクションを実践できる人材育成に繋がった。 			

中期計画	令和2年度	地方独立行政法人広島市立病院機構による自己評価			市長による評価																																																							
	年度計画	評価理由等		記号	評価理由・コメント等	記号																																																						
	イ 資格取得の促進(小項目) ・医療機能の向上に必要な資格取得の支援	<p>【医療機能の向上に必要な資格取得の支援】</p> <p>○ 専門教育を受けるために必要な費用等を法人が負担し認定看護師等の資格取得を促進した。</p> <p>(資格取得の状況)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>区分</th> <th>職種</th> <th>令和2年度資格取得状況等 ／認定看護師等総数（年度末）</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="2">広島</td> <td rowspan="2">看護師</td> <td>・クリティカルケア認定看護師修了者 1人</td> </tr> <tr> <td>・緩和ケア認定看護師修了者 1人</td> </tr> <tr> <td colspan="2" style="text-align: center;">(令和2年度末)</td> <td></td> </tr> <tr> <td colspan="2" style="text-align: center;">認定看護師</td> <td>29人</td> </tr> <tr> <td colspan="2" style="text-align: center;">特定行為研修修了者</td> <td>1人</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">安佐</td> <td rowspan="2">看護師</td> <td>・特定行為研修修了者 3人</td> </tr> <tr> <td colspan="2" style="text-align: center;">(令和2年度末)</td> <td></td></tr> <tr> <td colspan="2" style="text-align: center;">認定看護師</td> <td>18人</td> </tr> <tr> <td colspan="2" style="text-align: center;">特定行為研修修了者</td> <td>6人</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">舟入</td> <td rowspan="2">看護師</td> <td>・特定行為研修修了者 1人</td> </tr> <tr> <td colspan="2" style="text-align: center;">(令和2年度末)</td> <td></td></tr> <tr> <td colspan="2" style="text-align: center;">認定看護師</td> <td>8人</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">リハビリ</td> <td rowspan="2">看護師</td> <td>・特定行為研修修了者 1人</td> </tr> <tr> <td colspan="2" style="text-align: center;">(令和2年度末)</td> <td></td></tr> <tr> <td colspan="2" style="text-align: center;">認定看護師</td> <td>4人</td> </tr> <tr> <td colspan="2" style="text-align: center;">特定行為研修修了者</td> <td>1人</td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td>(令和2年度末)</td> </tr> <tr> <td></td> <td>療法士</td> <td>回復期セラピストマネジャー 3人</td> </tr> </tbody> </table> <p>【がん診療に携わる医師に対する緩和ケア研修会】</p> <p>○ 広島市民病院及び安佐市民病院では、地域がん診療連携拠点病院として、実施が定められている緩和ケア研修会を実施した。</p> <p>(広島市民病院) 研修日：令和2年10月25日、修了医師数及び他職種：38人 (安佐市民病院) 研修日：令和2年9月26日、修了医師数及び他職種：17人</p>	区分	職種	令和2年度資格取得状況等 ／認定看護師等総数（年度末）	広島	看護師	・クリティカルケア認定看護師修了者 1人	・緩和ケア認定看護師修了者 1人	(令和2年度末)			認定看護師		29人	特定行為研修修了者		1人	安佐	看護師	・特定行為研修修了者 3人	(令和2年度末)			認定看護師		18人	特定行為研修修了者		6人	舟入	看護師	・特定行為研修修了者 1人	(令和2年度末)			認定看護師		8人	リハビリ	看護師	・特定行為研修修了者 1人	(令和2年度末)			認定看護師		4人	特定行為研修修了者		1人			(令和2年度末)		療法士	回復期セラピストマネジャー 3人	3	年度計画を順調に実施しているため、「3」と評価した。	3
区分	職種	令和2年度資格取得状況等 ／認定看護師等総数（年度末）																																																										
広島	看護師	・クリティカルケア認定看護師修了者 1人																																																										
		・緩和ケア認定看護師修了者 1人																																																										
(令和2年度末)																																																												
認定看護師		29人																																																										
特定行為研修修了者		1人																																																										
安佐	看護師	・特定行為研修修了者 3人																																																										
		(令和2年度末)																																																										
認定看護師		18人																																																										
特定行為研修修了者		6人																																																										
舟入	看護師	・特定行為研修修了者 1人																																																										
		(令和2年度末)																																																										
認定看護師		8人																																																										
リハビリ	看護師	・特定行為研修修了者 1人																																																										
		(令和2年度末)																																																										
認定看護師		4人																																																										
特定行為研修修了者		1人																																																										
		(令和2年度末)																																																										
	療法士	回復期セラピストマネジャー 3人																																																										

中期計画	令和2年度	地方独立行政法人広島市立病院機構による自己評価	市長による評価		
	年度計画		評価理由等	記号	評価理由・コメント等
	<p><u>ウ 診療体制の充実（小項目）</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ・通院治療センター機能の充実（広島市民病院） ・救命救急センター機能の充実（広島市民病院） ・遠隔診療の実施（安佐市民病院） 	<p>【通院治療センター機能の充実】</p> <p>○ 通院治療センターについては、治療件数を増やすため、拡張整備を行うとともに、病床を 16 床から 5 床増設し、診療機能の充実を図った。</p> <p>【救命救急センター機能の充実】</p> <p>○ 院内の医師配置体制を見直し、救命救急センターへ麻酔科医師を常駐させ、救急科医師を救命救急センターの兼務医師とし、センター機能の充実を図った。</p> <p>【遠隔診療の実施】</p> <p>○ 安佐市民病院では、令和元年度に糖尿病透析予防指導管理料の算定対象となる患者に対してオンライン診療（※）が出来るシステムを導入し、令和 2 年度においても引き続き遠隔診療を実施した。</p> <p>※透析予防診療チームがリアルタイムでの画像を介したコミュニケーションが可能な情報通信機器を活用して、「糖尿病治療ガイド」等に基づき、患者の食事指導や運動指導などを必要に応じて実施</p>	4	通院治療センターの増床や医師配置体制を見直すなど、診療体制を充実させているため、「4」と評価した。	4
	<p><u>エ 医療機器の整備・更新（小項目）</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ・CT装置の更新（広島市民病院・リハビリテーション病院） 	<p>【医療機器の整備、更新】</p> <p>○ CT装置の更新について、広島市民病院とリハビリテーション病院で共同購入を実施し、広島市民病院は令和 2 年 12 月及び令和 3 年 3 月に、リハビリテーション病院は令和 3 年 3 月にそれぞれ更新した。高画質で短時間撮影が可能な CT 装置に更新することで、患者負担の軽減を図るとともに、診断の精度を向上することができた。</p>	3	年度計画を順調に実施しているため、「3」と評価した。	3

第1 市民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する目標を達成するためとるべき措置

2 医療の質の向上

(2) チーム医療の推進

中期目標	各医療スタッフが診療科や職種を越えて連携し、良好なコミュニケーションの下でそれぞれの専門性を生かした高度で質の高いチーム医療を推進すること。
------	--

中期計画	令和2年度	地方独立行政法人広島市立病院機構による自己評価	市長による評価		
	年度計画	評価理由等	記号	評価理由・コメント等	記号
(2) チーム医療の推進(小項目) 個々の患者の病状や、緩和ケア、褥瘡(じょくじょう)対策、呼吸ケア、栄養サポート等の課題に対応するため、医療スタッフが診療科や職種を越えて連携し、専門的、総合的な医療を提供するチーム医療を推進します。	(2) チーム医療の推進(小項目) ・多職種による緩和ケア、褥瘡対策、呼吸ケア、栄養サポート等のチーム活動の実施	<p>【多職種による緩和ケア、褥瘡対策、呼吸ケア等のチーム活動の実施】 (広島市民病院)</p> <p>○ 安全・安心で専門的、総合的な医療を提供するために、専門職としてのスキルアップを図り、チーム医療の活動を推進している。患者の生活の質(QOL)の向上のため、多職種チームで連携し、医療・看護を提供している。</p> <p>・緩和ケアチーム 医師、薬剤師、がん看護専門看護師、緩和ケア認定看護師、管理栄養士、社会福祉士で構成。チームは痛みの緩和だけでなく、病気が原因となる心と身体のつらさに多職種で関わり生活の質の向上に取り組んだ。</p> <p>・栄養サポートチーム(NST)、褥瘡対策部会 医師、看護師、薬剤師、臨床検査技師、理学療法士、管理栄養士、言語聴覚士で構成。全疾患を対象に適切な栄養管理が行えるようサポートした。また、創傷や褥瘡の予防に介入することで合併症の減少や入院期間の短縮に取り組んだ。</p> <p>・摂食・嚥下・口腔ケア部会(SEKチーム) 医師、薬剤師、言語聴覚士、理学療法士、作業療法士、管理栄養士、歯科衛生士、摂食・嚥下障害看護認定看護師、医事課事務員で構成。嚥下機能を正確に評価し、適切な食形態での提供を行うとともに、嚥下リハビリを継続的に実施することで嚥下機能回復に取り組んだ。また、周術期口腔ケアの管理により、術後合併症の減少に取り組んだ。</p> <p>・転倒・転落予防対策チーム 医師、リスクマネジャー(RM)、看護師、薬剤師、臨床検査技師、臨床工学校士、施設担当者、理学療法士、作業療法士で構成。転倒転落事故の原因分析、自己予防策の検討及び提言を行った。</p> <p>・呼吸ケアサポートチーム(RST) 医師、集中治療認定看護師、救急看護認定看護師、呼吸療法認定士、理学療法士、臨床工学校士、薬剤師で構成。院内のICUでの研修など、従事する</p>	3	年度計画を順調に実施しているため、「3」と評価した。	3

中期計画	令和2年度	地方独立行政法人広島市立病院機構による自己評価	市長による評価		
	年度計画	評価理由等	記号	評価理由・コメント等	記号
		<p>医療スタッフのスキルアップを図った。</p> <p>・<u>通院治療センターのチーム医療</u> 癌腫やレジメン（治療計画）、有害事象が複雑化する中、高度な知識と技術が求められる医師、看護師、薬剤師、管理栄養士で構成。個々の患者の病状やニーズに応じた適切な対応を行った。</p> <p>・<u>リエゾン・認知症ケア部会</u> 医師、認知症看護認定看護師、精神科認定看護師、看護師、薬剤師、公認心理師、社会福祉士、理学療法士、作業療法士、言語聴覚士で構成。せん妄・認知機能障害、認知症疾患、精神症状のある入院患者のケアを実践しスタッフへの助言、スキルアップのための研修を実施した。</p> <p>・<u>在宅療養支援部会</u> 医師、看護師、医療相談員、薬剤師、管理栄養士で構成。在宅で療養される患者の実態に応じた支援の検討・対応を行った。</p> <p>・<u>周産期トータルサポートチーム</u> 医師、看護師、医療相談員、薬剤師、心理療法士で構成。妊娠婦のメンタルサポートを行った。</p> <p>・<u>子ども虐待防止委員会</u> 医師、看護師、医療相談員、心理療法士で構成。小児期（18歳未満）の虐待防止のための支援を行った。</p> <p>・<u>排尿ケアチーム</u> 医師、看護師、理学療法士、作業療法士で構成。腹腔内術後、前立腺関連、脳神経系の後遺症に伴う排尿障害の患者へ、排尿ケアリンクナースを中心としたチーム医療を行った。患者の要望に応えるため、自己導尿や尿漏れ改善のため骨盤底筋群体操の指導を実施した。また、自部署で排尿ケアが行えるためのスキルアップ研修会を実施した。</p> <p>○ チーム医療の推進成果発表会 チーム医療の推進成果発表会は、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため開催できなかったものの、看護部7部署が「看護の質向上への取組」を行うとともに、取組集を配布した。</p> <p>(安佐市民病院)</p> <p>○ チーム医療の推進は、患者に対し専門的、総合的な医療を提供するために不可欠なものであると同時に職員の職種間のコミュニケーションの活性化や職員の満足度向上にも寄与している。このため、全職員を対象に年1回、チ</p>			

中期計画	令和2年度	地方独立行政法人広島市立病院機構による自己評価	市長による評価		
	年度計画	評価理由等	記号	評価理由・コメント等	記号
		<p>ーム活動の紹介や成果発表などを行い、活性化を図った。</p> <p>各チームは、基本的に月1回、定例会議を開催し、ラウンドを実施した。各活動の概要は以下のとおり。</p> <p>・<u>院内感染対策チーム</u></p> <p>インフェクションコントロールドクター（ICD※1）の資格を有する医師、感染管理認定看護師、感染制御認定薬剤師、抗菌化学療法認定薬剤師、感染制御認定臨床微生物検査技師、臨床工学技士、歯科衛生士、保健師で構成。サーベイランス（※2）を行い、医療関連感染の状況を把握し、感染対策が確実に行えるようにICTラウンド（※3）を実施した。また、全職員を対象とした院内研修（年2回）の企画、運営を行い、感染対策の指導・教育を行った。さらに、感染対策加算2の病院とのカンファレンスはウェブ会議を実施し、地域の医療機関と感染対策の情報共有、感染対策の向上に努めた。</p> <p>※1 ICD：医師、看護師、薬剤師、臨床検査技師など、多くの職種の役割を理解した感染制御の専門家</p> <p>※2 サーベイランス：各感染症の発症動向を調査し、分析を行うこと。</p> <p>※3 ICTラウンド：ICTとは感染制御チームを意味し、ラウンドとは病棟や病室内の見回りを意味することで、感染制御チームが病棟や病室内を見回りすること。</p> <p>・<u>災害対策チーム</u></p> <p>麻酔集中治療科医師、救急看護認定看護師、DMAT登録の看護師と薬剤師の他に、臨床検査技師、診療放射線技師、臨床工学技士、総務課職員で構成。院内の災害マニュアルの見直し検討や、災害対策の検討を行い増加する自然災害に対応できるよう取り組んだ。</p> <p>・<u>医療安全対策チーム</u></p> <p>リスクマネジャーの外科医師・看護師長を中心に小児科医師、外科医師、看護師、薬剤師、臨床検査技師、診療放射線技師、臨床工学技士、理学療法士、事務職で構成。IA報告（※）の分析・検討などを通して、システム改善に取り組んだ。特に、モニターラウンド（MACT）、転倒転落ラウンドを行い、医療事故防止に努めた。また、院内研修の企画・運営を行い、全職員が参加するようにビデオ研修を実施し、職員の意識向上に努めた。</p> <p>※ IA報告：IAとはインシデント・アクシデントを指しており、それらが発生した場合IA報告を行う。</p> <p>・<u>救急総合診療トリアージチーム</u></p>			

中期計画	令和2年度	地方独立行政法人広島市立病院機構による自己評価	市長による評価			
	年度計画	評価理由等	記号	評価理由・コメント等	記号	
		<p>総合診療内科医師、後期研修医、救急看護認定看護師、看護師、診療放射線技師、医療ソーシャルワーカー、医事課職員で構成。トリアージナースの育成を図り、トリアージの検証を行ってスキルアップを図ると共に、救急場面での課題や救急患者の社会的問題への対応などの検討を行った。</p> <p>・<u>看護部褥瘡対策チーム</u></p> <p>皮膚排泄ケア認定看護師と各部署の看護師で構成。皮膚科医師、皮膚排泄ケア認定看護師、薬剤師、臨床検査技師、栄養士などで構成される褥瘡対策委員会の下部組織として、新型コロナウイルス感染症が流行する中ではあったが必要な各部署のラウンドを実施。患者ラウンドで、直接的な指導・教育を図った。高齢患者も増え、スキンケア予防にも力を入れた。</p> <p>・<u>摂食・嚥下チーム</u></p> <p>脳外科医師、歯科医師、摂食嚥下障害看護認定看護師、薬剤師、言語聴覚士、栄養士、歯科衛生士で構成。NST委員会の下部組織として、週1回のラウンドを行い、患者の口腔ケア、口から食べることへの支援を図り、栄養状態の改善、経口摂取が可能となる患者支援を実践した。また、摂食機能療法を2,758件実施し、機能回復に積極的に介入した。</p> <p>・<u>緩和ケアチーム</u></p> <p>精神科医師、麻酔集中治療科医師、放射線科医師、外科医師、内科医師、泌尿器科医師、歯科医師、緩和ケア認定看護師、看護師、薬剤師、歯科衛生士、医療ソーシャルワーカー、心理療法士で構成。緩和ケアラウンドを定期的に実施し、身体的・心理的・スピリチュアルな苦痛の緩和や症状マネジメントなどの指導・支援を図り、患者のQOL向上を目指した活動をした。</p> <p>・<u>呼吸サポートチーム</u></p> <p>呼吸器内科医師、麻酔集中治療科医師、循環器内科医師、外科医師、集中ケア認定看護師、呼吸療法士の有資格者や呼吸器を使用する部署の看護師、薬剤師、理学療法士、栄養士、歯科衛生士、臨床工学技士で構成。呼吸器装着期間の短縮、再挿管率の減少を目的としてラウンドをしている。また気管切開患者に対して安全な管理は行えることを目的として集中ケア認定看護師は週一回ラウンドしている。OJTを通して適正な皮膚ケアの実施や、予測されるリスクへの対応をスタッフと共にしている。ラウンドの継続により気管切開患者関連のIAは減少している。</p> <p>・<u>心不全サポートチーム</u></p> <p>循環器内科医師、慢性心不全看護認定看護師、看護師、薬剤師、臨床検査技師、理学療法士、作業療法士、栄養士、医療ソーシャルワーカー、臨床工学</p>				

中期計画	令和2年度	地方独立行政法人広島市立病院機構による自己評価	市長による評価		
	年度計画	評価理由等	記号	評価理由・コメント等	記号
		<p>技士、医療クラークで構成。入院・外来患者・家族を対象とした心不全教室や、院内患者会WAP友の会の集いは新型コロナウイルス感染症の影響により中止となった。そのため、心不全教室の内容をDVDに収録したものを在宅支援事業認定施設の77施設へ配布し心不全教育に活用してもらった。認定看護師による病院訪問や病棟で少人数での心不全教室を継続し薬剤調整カンファレンスで減薬への取り組みも行った。慢性疾患患者の緩和ケアについても検討・普及を図った。</p> <p>・糖尿病チーム</p> <p>代謝内分泌内科医師、糖尿病認定看護師、糖尿病療養士の資格を有する看護師、薬剤師、臨床検査技師、理学療法士、作業療法士、栄養士及び歯科衛生士で構成。糖尿病患者・家族への治療・療養支援を行い、重症化予防に努めている。令和2年度は、新型コロナウイルス感染症の影響により糖尿病教室は中止した。糖尿病関連のIAはチームで共有し、対策を講じることで、前年度よりも減少した。</p> <p>・高齢者総合支援チーム</p> <p>総合診療内科医師、精神科医師、神経内科医師、循環器内科医師、外科医師、認知症看護認定看護師、看護師、薬剤師、作業療法士、栄養士、医療ソーシャルワーカーで構成。高齢者のせん妄対策や退院支援、尊厳死に関わる問題の検討などに取り組んでいる。新型コロナウイルス感染症の影響によりケア算定件数は前年度から減少したが、介入依頼件数は増加した。各病棟にリンクナース（※）を配置し、教育・指導を図った。</p> <p>※ リンクナース：専門チームや委員会と病棟看護師とをつなぐ役割を担う看護師</p> <p>・ASA肝臓チーム</p> <p>内科医師、肝臓コーディネーターの資格を有する看護師、薬剤師、臨床検査技師、栄養士、医療クラークで構成。慢性肝疾患患者・家族の支援、針刺し事故後の職員サポートを目的として活動した。入院患者のB型・C型肝炎ウイルスキャリア者の受診奨励を図った。</p> <p>・排尿ケアチーム</p> <p>泌尿器科医師、泌尿器科病棟看護師長、排尿ケア講習会修了看護師、薬剤師、理学療法士で構成。尿路感染防止と排尿ケアの自立を支援し、患者の活動性の向上、QOLの向上を図ることを目的に活動し、排尿自立の改善人数は148人で、依頼件数の83%であった。</p> <p>・特定集中治療室早期離床リハビリチーム</p>			

中期計画	令和2年度	地方独立行政法人広島市立病院機構による自己評価	市長による評価	
	年度計画	評価理由等	記号	評価理由・コメント等
		<p>I C U専従医師、理学療法士、看護師で構成。令和2年4月に早期離床プロトコルの見直しを行った。対象患者のカンファレンスは249人758件のリハビリ介入を実施した。</p> <p>・<u>抗菌薬適正使用支援チーム（A S T）</u></p> <p>インフェクションコントロールドクターの資格を有する医師、感染管理認定看護師、抗菌薬化学療法認定薬剤師、感染制御認定臨床微生物検査技師で構成。抗菌薬使用の評価かつ適正使用の推進を図るため、感染症治療のモニタリング及び評価を行い主治医にフィードバックするとともに、微生物検査、臨床検査が適正に利用できるよう体制を整備した。</p> <p>・<u>周術期管理チーム</u></p> <p>麻酔科医師、外科医師、看護師、薬剤師、作業療法士、栄養士、歯科衛生士で構成。患者の高齢化や重症化が進む中、周術期医療の安全・質の向上を目的に安心して手術を受けることができるよう、平成30年度から多職種で入院前から周術期のリスク評価・支援を実施している。令和2年度から外科、整形外科（膝、頸椎）の周術期管理を実施し、介入件数は1,034件で前年度より増加した。</p> <p>(舟入市民病院)</p> <p>○ 専門職としてのスキルアップを図り、安全・安心で専門的、総合的なチーム医療体制を構築するため、院内に部会、委員会を設立し活動を推進した。各活動の概要は以下のとおり。</p> <p>・<u>栄養サポートチーム（N S T）</u></p> <p>内科医師、外科医師、看護師、栄養士、薬剤師、理学療法士で構成。定期的にカンファレンス及び患者訪問により患者個々に合った食事調整や輸液の提案、摂食指導等を行った。摂食・嚥下チームや褥瘡対策チームとも連携した栄養管理を行っている。</p> <p>・<u>緩和ケアチーム</u></p> <p>内科医師、外科医師、看護師、栄養士、薬剤師、理学療法士で構成。週1回の症例検討や看取り後に行うカンファレンスを行った。患者の「最後まで自分らしく生きたい」その願いをサポートすることをコンセプトとしている。地域の病院からの緩和ケア患者を積極的に受け入れて連携を図った。</p> <p>・<u>摂食・嚥下チーム</u></p> <p>内科医師、歯科医師、摂食・嚥下障害看護認定看護師、理学療法士、栄養士、歯科衛生士で構成。嚥下機能の正確な評価と口から食べることへの支</p>		

中期計画	令和2年度	地方独立行政法人広島市立病院機構による自己評価	市長による評価		
	年度計画	評価理由等	記号	評価理由・コメント等	記号
		<p>援を行い、患者の生活の質の向上につなげた。具体的には、患者の口腔ケア、摂食時のポジショニング、食事形態の工夫などを行い、口腔内の機能を改善し、誤嚥性肺炎の予防、栄養状態の改善を目指した。</p> <p>・<u>院内感染対策チーム</u></p> <p>定期的な部署ラウンド、地域での相互ラウンドなどを実施した。院内での感染対策上の問題をICT会議などで議論し、感染対策委員会へ提案、改善などを行った。</p> <p>新型コロナウイルス感染対策として、令和2年1月30日に新型コロナウイルス感染症対策マニュアルを作成し運用開始した。評価しながら改訂を繰り返し、具体的に行動できるまでにした。また、必要時に研修会を行うなど、感染対策の周知に努めた。</p> <p>舟入市民病院の職員は、第2種感染症指定医療機関に勤務する職員であることを自覚して行動することや標準予防策を遵守して体調管理を行うことを各部署へ依頼した。</p> <p>・<u>抗菌薬適正使用支援チーム（AST）</u></p> <p>感染症専門医、感染管理認定看護師、抗菌化学療法認定薬剤師、臨床微生物検査技師で構成し、毎週水曜日14時から特定抗菌薬使用患者、血液培養陽性症例のコンサルテーション業務（電子カルテへのコメント入力）、内服抗菌薬チェック等を月平均30症例実施した。感染対策連携共通プラットフォームに登録し報告している。また適宜、抗菌薬使用に関する相談を感染症専門医、薬剤師が担っている。</p> <p>・<u>医療安全対策チーム</u></p> <p>IA報告より対策立案や指針、マニュアルの改訂、システムの改善等を行い、定期的な院内ラウンドを通してマニュアルの周知を行った。医師・看護師・薬剤師・臨床検査技師・放射線技師・理学療法士・管理栄養士による院内ラウンドを実施し医療事故防止に努めた。院内研修の企画・運営も行い、職員の医療安全文化の醸成に努めた。</p> <p>・<u>褥瘡対策チーム</u></p> <p>皮膚排泄ケア認定看護師、医師、薬剤師、臨床検査技師、理学療法士、各部署のリンクナースで患者ラウンドを行った。</p> <p>・<u>虐待防止チーム</u></p> <p>虐待を含む不適切な療養環境にある子どもや高齢者、障害児者、その家族に対し支援の方法を検討、実施した。虐待に関する院内研修の企画・運営も行い、職員の意識の向上に努めている。</p>			

中期計画	令和2年度	地方独立行政法人広島市立病院機構による自己評価	市長による評価		
	年度計画	評価理由等	記号	評価理由・コメント等	記号
		<p><u>・小児救急トリアージチーム</u> トリアージカンファレンスを定期的に開催し、トリアージの検証（アンダートリアージ、オーバートリアージ）や稀少症例の検討などを行った。トリアージナースの育成の他、小児救急看護分野の院内認定看護師の育成も行い、小児救急患者のアセスメント能力のスキルアップを図った。</p> <p>(リハビリテーション病院)</p> <p>○ チーム医療としてNST・栄養管理、摂食・嚥下、褥瘡対策などの活動を行っており、院内で活動状況の発表を行った。令和2年度は新たに排尿ケアチームが活動を始めた。各活動の概要は以下のとおり。</p> <p><u>・栄養サポートチーム (NST)</u> 医師、歯科医師、看護師、栄養士、薬剤師、臨床検査技師、理学療法士、作業療法士、言語聴覚士、歯科衛生士で構成。定期的なミールラウンド後のカンファレンスにて、摂取状況等の把握も行い、リハビリテーションをより効果的に進めるための栄養管理を実施した。</p> <p><u>・摂食・嚥下チーム</u> 医師、歯科医師、看護師、言語聴覚士、栄養士等で構成。摂食嚥下評価や摂食嚥下訓練・スタッフ指導等を定期的に行い、「口から食べる機能回復」に貢献した。摂食嚥下支援は対象人数32人、延べ件数236件であった。</p> <p><u>・褥瘡対策チーム</u> 医師、皮膚排泄ケア認定看護師、看護師、理学療法士、作業療法士、薬剤師、栄養士で構成。定期的なラウンドにて、マット調整・起居動作・栄養状態の確認等を実施し、持込み褥瘡の改善や装具による新たな褥瘡の予防を実践指導した。</p> <p><u>・感染対策チーム</u> 医師、看護師、セラピスト、薬剤師、臨床検査技師、歯科衛生士、保健師等で構成。毎月のICTラウンドや部署内研修、感染対策マニュアルの改訂などを実施した。特に新型コロナウイルス感染症対策として、職員のマスク・手洗い・体調管理の徹底、クラスター防止対策の環境調整や、不要不急の県外への移動の自粛や複数人での会食禁止などの職員教育を実施した。</p> <p><u>・リスクマネジメントチーム</u> 医師、医療安全管理者、看護師、セラピスト、薬剤師、臨床検査技師、診療放射線技師、事務、管理栄養士、歯科衛生士、心理療法士等で構成。毎月</p>			

中期計画	令和2年度	地方独立行政法人広島市立病院機構による自己評価	市長による評価		
	年度計画	評価理由等	記号	評価理由・コメント等	記号
		<p>のラウンドや部署内研修を行い、医療事故防止に努めた。また、リスクマネジメントマニュアルの改訂などを実施した。また、リハビリテーション病院で発生しやすいリスクについて、以下の小チームを設置し、専門的に調査・検討している。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・転倒転落対策チーム 転倒転落の事例を毎週集計し、必要時、原因・発生機序などを分析し、職員への注意喚起や情報発信等を行う。ベッドサイド環境のラウンドも実施した。 ・薬剤対策チーム 薬剤関連（内服・注射・点滴）に関するIAを集計し、原因・発生機序を分析しマニュアル改訂や再発防止に向けた職員へのフィードバックをした。注射・点滴関連の衛生材料の検討も実施した。 ・その他の事例対策チーム 離院・離棟、暴言暴力、給食関連、院内連携関連のIAを集計し職員に情報発信した。 ・離床促進チーム 看護師、セラピストで構成し、リハビリ時間以外に身体能力強化訓練を実施した。毎日行う立ち上がり訓練や排便体操は、延べ 8,462 人（令和元年度 12,577 人）が参加した。なお、教育サロンは、新型コロナウィルス感染症の感染防止のため実施しなかった。 ・患者サービス向上チーム 看護師、セラピストが企画し、筋力強化訓練、全職員が協力して患者参加のコンサートやリフレッシュ（嚥下・排便）体操などを実施している。なお、教育サロン及び座談会は、新型コロナウィルス感染症の感染防止のため実施しなかった。開催頻度は月 1 回程度のものから毎日のものまであり、参加者は年間延べ 7,748 人（令和元年度 8,573 人）であった。 ・認知症ケアチーム 医師、認知症看護認定看護師、社会福祉士、セラピスト及び薬剤師等で構成。身体疾患のために入院した認知症患者に対する病棟での対応力とケアの質の向上を図るために活動を行った。令和 2 年度は対象人数 110 人、延べ 5,875 件（令和元年度対象人数 45 人、延べ 1,735 件）であった。また、全職員を対象に認知症ケアに関する研修会を実施した。 ・排尿ケアチーム 医師、皮膚・排泄ケア認定看護師、セラピストで構成。令和 2 年 11 月から、 			

中期計画	令和2年度	地方独立行政法人広島市立病院機構による自己評価		市長による評価	
	年度計画	評価理由等	記号	評価理由・コメント等	記号
		下部尿路機能障害を持つ患者に対し、排尿誘導や動作訓練、指導など機能回復のための包括的なケアを提供した。定期的なカンファレンスやラウンドにて、評価・実践・教育を行った。令和2年度は延べ202件に介入した。			

第1 市民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する目標を達成するためとるべき措置

2 医療の質の向上

(3) 医療の安全確保の強化

中期目標	医療事故や院内感染、ヒヤリ・ハットなどに関する情報収集・分析の実施、予防及び再発防止への取組などにより、市民に信頼される安全な医療を提供すること。また、医療安全に係る体制やマニュアルを継続的に見直すことなどにより、医療安全対策の強化を図ること。
-------------	--

中期計画	令和2年度	地方独立行政法人広島市立病院機構による自己評価	市長による評価		
	年度計画	評価理由等	記号	評価理由・コメント等	記号
(3) 医療の安全確保の強化（小項目） 市民に信頼される安全な医療を提供するため、医療安全管理委員会等が中心となり、医療安全に関する情報の収集・分析、医療事故等の発生防止や対応マニュアルの作成、院内研修の実施を行うことなどにより、医療安全対策を徹底します。	(3) 医療の安全確保の強化（小項目） ・医療安全対策の徹底 関連情報の収集・分析、対応マニュアルの点検、作成、院内研修等の実施 複数の医療機関と連携した医療安全対策に関する評価の実施 ・院内感染の防止 感染症に関する情報収集、院内の調査・監視、職員への指導・啓発等の実施 抗菌薬適正使用支援チーム	<p>【医療安全対策の徹底】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 広島市民病院では、医療安全管理室に専従の医療安全管理者2人を配置し、医療安全管理を行った。また、県立広島病院、リハビリテーション病院と連携し、医療安全対策に関する相互評価を実施した。 ○ 安佐市民病院では、TQMセンター（医療安全対策担当）に、専従の医療安全管理者1人を配置し、医療安全管理を行った。また、安芸太田病院、J A吉田総合病院、野村病院及びメリィハウス西風新都病院の4医療機関と連携して、医療安全対策に関する相互評価を実施した。 ○ 舟入市民病院では、医療支援室に、専従の医療安全管理者1人を配置し、医療安全管理を行った。また、中電病院や共立病院、安芸市民病院と連携し、医療安全対策に関する相互評価を実施した。 ○ リハビリテーション病院では、医療支援室に専任の医療安全管理者1人を配置し、医療安全管理を行った。また、広島市民病院と連携し、医療安全対策に関する相互評価を実施した。 ○ 各病院とも、事例検討会やワーキンググループ活動で、事例の改善策の検討や医療安全関連のマニュアル等の見直し・整備を行った。 ○ 各病院とも各部署に、リスクマネジャーを配置し、IA報告を取りまとめ、各職種で構成される委員会に毎月報告するとともに、毎月部長会などで報告し院内への周知・情報の共有化を図った。 <p>【院内感染の防止】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 広島市民病院では、医療支援センターに専従の感染管理認定看護師1人を配置し、月に1回の感染対策委員会開催のほか、感染制御チームと抗菌剤適正使用支援チームを設置し、院内の感染予防と管理に取り組んだ。また、新型コロナウイルスの感染拡大防止の目的で、令和2年3月9日から慢性疾患等を有す 	4	院内感染対策のマニュアルの見直しや面会制限等の院内感染対策を強化したことは認められるが、広島市民病院内でクラスターが発生したことを踏まえ、「3」と評価した。	3

中期計画	令和2年度	地方独立行政法人広島市立病院機構による自己評価	市長による評価		
	年度計画	評価理由等	記号	評価理由・コメント等	記号
	による指導の実施（広島市民病院、安佐市民病院）	<p>る定期受診患者に対して電話による診療で院外処方箋を発行する取組を行っている。（令和2年度院外処方箋発行件数：3,054件）</p> <p>○ 広島市民病院では、新型コロナウイルス感染症拡大防止対策として次の対策を実施した。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・入院患者との面会禁止措置の実施 ・病院内の通抜けを防止するため入口の一部閉鎖 ・発熱外来の設置 ・病院見学、実習受入れの制限 ・職員には、医療従事者であることを自覚し、責任ある行動を取るように通知 <p>こうした中、令和2年12月と令和3年2月に2度の院内感染クラスターが発生したため、院内に入院病床を確保するとともに、外部委員を含めた新型コロナウイルス感染症対策本部を立ち上げ、徹底したPCR検査の実施や感染防止策に取り組んだ。</p> <p>○ 安佐市民病院では、TQMセンターに専従の感染管理認定看護師1人を配置し、院内感染対策チームとサーベイランス、巡視活動、研修などを行うとともに、抗菌薬適正使用支援チーム（AST）において、抗菌薬使用の評価かつ適正使用の推進を図るため、感染症治療のモニタリング等を行い、必要時に介入を実施した。</p> <p>また、感染対策加算2の病院とのカンファレンスはウェブ会議を実施し、地域の医療機関と感染対策の情報共有、感染対策の向上に取り組んだ。新型コロナウイルス感染症の感染対策に関しては、マニュアルの作成及び見直し、ゾーニングの実施、コロナ専用病棟の運用、面会制限の実施、外来トリアージ（病院玄関での入館者、面会者の体温測定）、体調不良者の就業制限の徹底を実施した。</p> <p>○ 舟入市民病院では、新型コロナウイルスの感染防止としてマニュアルの見直しを行い、対応できるよう体制整備を行った。また、前記の感染症に関する研修会や感染防止のためのガウンテクニックの習得に向けたトレーニング等を実施した。さらに、面会制限、外来トリアージ（面会者・患者の体温測定）、職員の体温測定と体温管理表への記載、体調不良者の把握と舟入市民病院発熱外来への受診等健康管理の強化、一部の委員会及び研修会の中止又はビデオ形式研修等への変更、院内外の研修参加の自粛を行った。</p> <p>○ リハビリテーション病院では、感染対策委員会で新型コロナウイルス感染症対策マニュアルの見直しを行うとともに、新型コロナウイルス感染症対策本部において院内感染予防を最優先とした発生段階ごとの対策の周知徹底や、面会の禁止及び緩和、外来リハビリテーション等の一時休止及び再開などについて</p>			

中期計画	令和2年度	地方独立行政法人広島市立病院機構による自己評価		市長による評価	
	年度計画	評価理由等	記号	評価理由・コメント等	記号
		<p>検討した（令和2年度は対策本部会議を8回開催した。）。</p> <p>職員に対しては、病院長が健康管理や会食など感染につながる行動の自粛等について徹底するよう指導した。</p> <p>また、後方支援病院として新型コロナウイルス感染症が回復後、引き続き入院管理が必要な患者を受け入れるに当たり、受入患者に対する感染対策やリハビリテーションの実施方法等について検討した。</p>			

第1 市民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する目標を達成するためとるべき措置

2 医療の質の向上

(4) 医療に関する調査・研究の実施

中期目標	職員の自主的な研究活動を支援するとともに、治験を積極的に推進するなど、質の高い医療の提供と医療水準の向上を図るための調査・研究に取り組むこと。
------	---

中期計画	令和2年度	地方独立行政法人広島市立病院機構による自己評価		市長による評価	
	年度計画	評価理由等	記号	評価理由・コメント等	記号
(4) 医療に関する調査・研究の実施（小項目） 職員の自主的な研究活動を支援するとともに、研究成果の情報発信に努めます。また、治験等の臨床研究の推進に積極的に取り組みます。	(4) 医療に関する調査・研究の実施（小項目） ・職員の自主的な研究活動の支援と研究成果の発信 ・患者の意見を尊重した治験等臨床研究の推進	<p>【職員の自主的な研究活動の支援と研究成果の発信】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 職員の自主的な研究成果を発表する場として、院内機関誌（広島市民病院「医誌」、安佐市民病院「業績集」）の発行や学会での発表に配慮した勤務シフトの見直しなどを行った。広島市民病院では、職員向けにインターネットによる文献検索サイトや国内外の医療雑誌を収録した電子ジャーナル及び研修医向け臨床医学情報サイトと契約した。舟入市民病院では、院内において自主的な研究活動の発表会を実施した。リハビリテーション病院では、学会発表や論文発表などを取りまとめた年報を作成し、院内において自主的な研究活動の発表会を実施した。 ○ 広島市民病院では、医療機関等から提案の研究内容に賛同し積極的に共同研究事業に参画しており、日本医療研究開発機構（AMED）委託費による東京医療センター（1件）、国立がん研究センター（1件）、岐阜大学（1件）、防衛医科大学校（1件）との共同研究事業（計4件）を行った。 ○ 安佐市民病院では、医療機関等から提案の研究内容に賛同し積極的に共同研究事業に参画しており、日本医療研究開発機構（AMED）委託費による静岡がんセンター（2件）、国立がん研究センター（1件）及び京都府立医科大学（1件）とのがん治療に関する共同研究事業（計4件）を行った。 ○ 舟入市民病院では、令和2年3月から、抗ウイルス効果が期待される薬剤の投与による新型コロナウイルス感染症患者の臨床情報に関する観察研究（国立国際医療研究センター レジストリ研究、藤田医科大学 COVID-19 観察研究）に登録し、症例報告を行った。 <p>【患者の意見を尊重した治験等臨床研究の推進】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 広島市民病院では、治験参加の同意を得る際には、副作用や参加のメリット・デメリットをより詳しく説明し、患者の理解を得た上で実施している。 	3	年度計画を順調に実施しているため、「3」と評価した。	3

中期計画	令和2年度	地方独立行政法人広島市立病院機構による自己評価		市長による評価	
	年度計画	評価理由等	記号	評価理由・コメント等	記号
		<ul style="list-style-type: none"> ○ 安佐市民病院では、臨床研究について倫理的、科学的妥当性を倫理委員会で審議している。治験を実施する際には、患者に対して文書による説明を行った上で同意を得ている。 ○ 舟入市民病院では、臨床研究について倫理的、科学的妥当性を倫理委員会で審議している。 ○ リハビリテーション病院では、臨床研究について倫理的、科学的妥当性を倫理委員会で審議している。診療情報等を研究目的に利用するに当たっては、入院時に患者に対し文書で説明し、同意を得ている。 			

第1 市民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する目標を達成するためとるべき措置

2 医療の質の向上

(5) 災害医療体制の充実

中期目標	広島市地域防災計画等に基づき、日頃から防災関係機関や他の災害拠点病院との連携を図るとともに、災害時には、病院機能を維持し、迅速に災害医療の提供を行うことができる体制を整備すること。
------	--

中期計画	令和2年度	地方独立行政法人広島市立病院機構による自己評価 評価理由等	市長による評価		
	年度計画		記号	評価理由・コメント等	
(5) 災害医療体制の充実（小項目）	(5) 災害医療体制の充実（小項目）	<p>【災害その他の緊急時における、医療救護活動の実施】</p> <p>【災害時リハビリテーションの実施（リハビリテーション病院）】</p> <p>（広島市民病院）</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 新型コロナウイルス感染症拡大に伴い、広島県看護協会主催の講習は開催されなかったが、令和2年度は、災害支援ナースとして34人の登録となった。 ○ 広島県からの派遣要請を受け、令和2年7月6日から同月8日まで熊本県人吉・球磨医療圏保健医療調整本部（人吉医療センター）にDMAT（医師1人、看護師2人、臨床検査技師1人）を派遣し、活動を行った。 ○ 広島県主催によるDPAT（災害派遣精神医療チーム）の研修に医師、看護師及び医療相談員（MSW）が参加した。 ○ 新型コロナウイルス感染症患者対応では、医師、看護師、診療放射線技師の派遣を行い、クラスター発生施設に延べ4人（医師：延べ2人、看護師：延べ2人）、千田町夜間急病センタートリアージ外来に延べ55人（医師：延べ18人、看護師：18人、診療放射線技師：19人）、県立広島病院トリアージ外来に延べ7人（看護師：延べ7人）の派遣を行った。また、宿泊療養者対応として、宿泊療養施設に延べ50人（医師：延べ50人）派遣（オンライン対応含む。）を行うとともに、令和2年8月1日から令和3年3月31日までオンコールで対応した。 <p>（安佐市民病院）</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 新型コロナウイルス感染症拡大に伴い、広島県看護協会主催の講習は開催されなかったが、令和2年度は、災害支援ナースとして6人の登録となった。 ○ 新型コロナウイルス感染症の施設クラスター発生に伴う支援要請があり、医師1人、感染管理認定看護師1人を派遣した。 ○ 安佐市民病院では、令和2年度の医療救護活動の実績はなかったが、広島県主催によるDMAT（災害派遣医療チーム）の研修に医師、看護師、事務職が 	3	年度計画を順調に実施しているため、「3」と評価した。	3

中期計画	令和2年度	地方独立行政法人広島市立病院機構による自己評価	市長による評価		
	年度計画	評価理由等	記号	評価理由・コメント等	記号
		<p>参加した。</p> <p>(舟入市民病院)</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 令和2年度は、災害支援ナース10人の登録があり、1人の看護師に公益財団法人日本看護協会のDVD研修を受講させた。 ○ 舟入市民病院では、研修会を開催するなど、防災に関する意識付けを行った。 ○ 新型コロナウイルス感染症の対応として、広島県からの応援要請を受け、令和2年9月に約2週間、沖縄県に看護師1人を派遣した。 <p>(リハビリテーション病院)</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 災害その他緊急時には、広島県地域リハビリテーション広域支援センターとして、広島県災害時公衆衛生チーム（リハビリチーム）に理学療法士等を派遣し、避難所での災害時リハビリテーションを行う体制を整備している。 ○ 新型コロナウイルス感染症患者の受入医療機関の後方支援として、新型コロナウイルス感染症が回復後、引き続き入院管理が必要な患者の転院受入を行った（舟入市民病院から7人、安佐市民病院から1人、県立広島病院から1人）。 			

第1 市民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する目標を達成するためとるべき措置

3 患者の視点に立った医療の提供

(1) 病院情報・医療情報の発信

中期目標	ア 診療内容や治療実績などの患者等が病院を選択する上で必要な情報、病院の現状や地域の医療機関との役割分担に係る市民の理解を促進する情報及び健康づくりや疾病に関する情報を積極的に提供すること。 イ 病院の運営内容や経営状況についての情報及び医療に関する研究成果などの情報を、市民に分かりやすく発信すること。
------	---

中期計画	令和2年度	地方独立行政法人広島市立病院機構による自己評価 評価理由等	市長による評価	
	年度計画		記号	評価理由・コメント等
<u>3 患者の視点に立った医療の提供（大項目）</u>	<u>3 患者の視点に立った医療の提供（大項目）</u>			
<u>(1) 病院情報・医療情報の発信（小項目）</u> <ul style="list-style-type: none"> ・ホームページや広報紙等を利用した病院の特色や治療実績等の積極的な情報発信に取り組むとともに、病院の現状や地域の医療機関との役割分担に係る市民の理解を促すための情報及び健康づくりや疾病に関する情報を市民に分かりやすい形で発信します。 ・病院の運営、財務に関する計画や実績、医療に関する研究成果等を市民に分かりやすい形で公表します。また、地方独立行政法人化の目的や効果について、広報します。 	<u>(1) 病院情報・医療情報の発信（小項目）</u> <ul style="list-style-type: none"> ・市立病院機構及び各病院のホームページの充実 <p>【ホームページの充実】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 広島市民病院では、広報等の新規情報の掲載を迅速に行うとともに、時機を得た掲載情報の更新を行った。 ○ 安佐市民病院では、スマートフォン対応サイトの充実を図った。また、ホームページ掲載用動画の作成も行っている。 ○ 舟入市民病院では、他病院と連携を図り、ホームページに年末年始救急診療の待ち時間表示を行った。 ○ リハビリテーション病院では、各種情報の新規掲載や更新を行うよう努めており、令和2年度は、特に新型コロナウイルス感染症の感染拡大に伴う面会制限や外来リハビリテーション等の一時休止など感染防止対策についての情報提供に努めた。 <ul style="list-style-type: none"> ・病院の現状や地域の医療機関との役割分担に係る市民の理解を促すための情報の発信 <p>【病院の現状や地域の医療機関との役割分担に係る市民の理解を促すための情報の発信】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 各病院の扱った症例と施術内容、研究業績等の医療情報は、学会や、各病院のホームページ、病院の発行する広報誌及び情報誌で情報提供した。 ○ 広島市民病院では、国立研究開発法人科学技術振興機構が作成しているインターネット上の文献データベースに「医誌」を登録し、掲載している論文の概要を公開した。 ○ 広島市民病院のホームページにおいて、同病院の役割である救急医療コントロール機能（受入困難事案の救急患者を一旦受け入れて初期診療を行った上で、必要に応じて支援医療機関へ転院させるもの）や地域医療連携についての情報を提供した。 	3	年度計画を順調に実施しているため、「3」と評価した。	3

中期計画	令和2年度	地方独立行政法人広島市立病院機構による自己評価	市長による評価		
	年度計画	評価理由等	記号	評価理由・コメント等	記号
	<p>・病院の運営、財務に関する計画や実績等の公表</p>	<p>また、トップページから「外来担当医一覧」にタブを設け、診療科の「診療内容」、「診療分野」とその分野の「外来担当医」、「医師情報詳細」にアクセスしやすいように設定した。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 安佐市民病院では、ホームページ掲載の「院内がん登録集計表（広島県共通様式）」を更新した他、過去10年のがん診療における患者傾向をまとめ掲載した。また、地元医師会の学会にて安佐市民病院の高齢者がん診療の現状、特に高齢化と機能分化について発表を行い、地域の医療職へ情報発信を行った。 ○ 安佐市民病院では、広報誌やホームページにおいて、地域医療連携についての救急医療体制の紹介及び窓口の明記を行った。また、病院正面玄関入口に登録医の医療機関の地図、紹介チラシを配置した「地域医療連携マップ」を掲示し、受診相談やかかりつけ医紹介に活用した。 ○ 舟入市民病院のホームページでは、小児患者の利用が多いことから、夜間や休日などの診療時間外に病院を受診するかどうかの判断の目安を掲載するとともに、子どもの急なのが・事故・病気への対応が行えるよう、広島小児救急医療相談電話（子どもの救急電話相談）の案内や休日夜間の診療のための「小児救急の待ち時間情報」を提供した。 ○ 舟入市民病院では、地域の公民館と協働し、地域住民を対象に健康づくり活動や地域のクリニックや訪問看護ステーション、介護施設、薬局などから医療職を対象に、多職種合同地域連携研修会を計画していたが、新型コロナウイルス感染症の流行により、実施できなかった。 ○ リハビリテーション病院のホームページでは、診療内容や施設の概要を病院早わかりスライドショーで紹介しており、令和2年度は、新たにリハビリテーション技術科の療法士による自宅でできるトレーニング方法等を動画で紹介した。 <p>また、リハビリテーション病院が発行する広報誌においても診療実績、診療科や各種行事等の情報提供に努めた。</p> <p>このほか、令和2年度は、広島市の広報番組においてリハビリテーション病院、自立訓練施設、広島市身体障害者更生相談所が一体となって障害者の社会復帰を支援していることをPRした。</p> <p>【病院の運営、財務に関する計画や実績等の公表】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 市立病院機構のホームページに、法人の基本理念や基本方針、中期計画、年度計画などを公表するとともに、財務諸表や事業報告書、業務実績に係る評価結果等を掲載した。 			

第1 市民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する目標を達成するためとるべき措置

3 患者の視点に立った医療の提供

(2) 法令・行動規範の遵守

中期目標	医療法を始めとする関係法令を遵守することはもとより、市立病院としての行動規範と倫理に基づき、適正な病院運営を行うこと。また、個人情報保護及び情報公開に関しては、本市条例等に基づき適切に対処するとともに、情報セキュリティ対策の強化に取り組むこと。
------	--

中期計画	令和2年度	地方独立行政法人広島市立病院機構による自己評価 評価理由等	市長による評価	
	年度計画		記号	評価理由・コメント等
(2) 法令・行動規範の遵守（小項目） 医療法を始めとする関係法令及び行動規範の遵守についての研修等を行い、職員の意識を向上させ、適正な病院運営に取り組みます。また、広島市立病院機構情報セキュリティーポリシーに基づき、個人情報を適正に取り扱います。	(2) 法令・行動規範の遵守（小項目） ・倫理・服務に関する研修の実施などによる服務規律の徹底 ・広島市立病院機構情報セキュリティーポリシーに基づく、個人情報の適正な取扱い	<p>【服務規律の徹底】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 新規採用職員を対象に、服務規律に関する法人の規程を説明するとともに、過去の処分事例の紹介等を行い、服務規律の徹底を図るため、4月に合同研修を行う予定であったが、新型コロナウイルス感染症の拡大に伴い、法人全体での合同研修が開催できなかった。これにより、令和2年度は、各病院において職員倫理研修を行い、服務規律の徹底を図った。 ○ 金品受領禁止や飲酒運転防止等、服務規律の遵守について、文書により職員へ周知徹底し、綱紀肅正を図った。 <p>【個人情報の適正な取扱い】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 広島市立病院機構情報セキュリティーポリシーに基づき、令和2年度はビデオ教材による情報セキュリティ研修を実施し、個人情報の適正な取扱いについて、職員への意識向上を図った。 	3	年度計画を順調に実施しているため、「3」と評価した。

第1 市民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する目標を達成するためとるべき措置

3 患者の視点に立った医療の提供

(3) 安心で最適な医療の提供

中期目標	ア 患者の権利を尊重し、患者中心の医療であることを十分に認識するとともに、患者やその家族が抱える様々な不安や問題などの相談に積極的に対応することで、安心して医療を受けられる環境を提供すること。
	イ インフォームド・コンセント（患者自身が医療内容を理解・納得し、自分に合った治療法を選択できるよう、患者に十分な説明を行った上で同意を得ること。）を徹底することで、信頼と満足の得られる医療を提供すること。
	ウ セカンドオピニオン（診断や治療方針について主治医以外の医師から意見を聞くこと。）の充実により、患者に合った診療の選択を支援すること。
	エ クリニカルパス（疾病別に退院までの治療内容を標準化した計画書）の活用拡大などにより、入院から退院まで安全・適正かつ効率的な医療を提供すること。

中期計画	令和2年度	地方独立行政法人広島市立病院機構による自己評価 評価理由等	市長による評価	
	年度計画		記号	評価理由・コメント等
(3) 安心で最適な医療の提供	(3) 安心で最適な医療の提供			
ア 相談機能の強化(小項目) 安心して医療を受けられる環境を提供するため、医療支援センター等の相談支援体制を強化し、疾病や入院等に関することや、退院後の療養や介護支援など、患者やその家族が抱える様々な不安や問題などの相談に積極的に対応します。	ア 相談機能の強化(小項目) ・患者相談窓口業務の充実 (広島市民病院) ・自殺未遂者支援窓口と医療機関等との連携(広島市民病院、安佐市民病院)	<p>【患者相談窓口業務の充実】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 広島市民病院ではスタッフの増員などの体制強化により、医療・福祉の相談業務に積極的に取り組んだ。地域の医療機関からのスムーズな患者の受け入れ、退院後の地域の医療機関への紹介に取り組むとともに、積極的に患者の退院後の生活支援に取り組んだ。 ○ 広島市民病院では、入院支援室を通じて、地域の歯科医との連携(周術期患者の紹介)の強化を継続し、口腔機能の管理による合併症予防に取り組んだ。また、薬剤師外来を併設し、かかりつけ薬局との連携に取り組んだ。 ○ 広島市民病院では、入退院支援 2,345 件、退院時共同指導 76 件を実施した(令和元年度入退院支援 2,779 件、退院時共同指導 117 件)。 <p>【自殺未遂者支援窓口と医療機関等との連携】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 広島市民病院では、広島市が進める自殺未遂者の自殺再企図防止支援事業への協力を継続するとともに、弁護士会「自死ハイリスク者のための支援事業」にも協力し自殺再企図防止に取り組んだ。 ○ 安佐市民病院では、広島市からの委託を受け、平成 30 年 4 月から自殺未遂者支援コーディネーターを配置して支援体制を構築し、引き続き、「自傷患者への早期介入を行う」ことを目標として支援を行うとともに、月 1 回、市の担当部署(精神保健福祉センター)や他の病院(広島市民病院等)のコーディネーターとともに会議を行い、支援内容の実施報告や課題等について協議を実施した。 	3	年度計画を順調に実施しているため、「3」と評価した。

中期計画	令和2年度	地方独立行政法人広島市立病院機構による自己評価		市長による評価																
	年度計画	評価理由等	記号	評価理由・コメント等	記号															
<u>イ インフォームド・コンセントの徹底（小項目）</u> インフォームド・コンセント（患者自身が医療内容を理解・納得し、自分に合った治療法を選択できるよう、患者に十分な説明を行った上で同意を得ること。）を徹底し、患者の権利を尊重し、信頼と満足を得られる医療を提供します。	<u>イ インフォームド・コンセントの徹底（小項目）</u> ・患者の権利を尊重し、信頼と満足を得られる医療を提供できるよう、インフォームド・コンセントの徹底	<p>【インフォームド・コンセントの徹底】</p> <p>○ 各病院において、治療方法の決定に当たっては、インフォームド・コンセントを徹底し、患者の権利を尊重し、信頼と満足を得られる医療を提供した。</p>	3	年度計画を順調に実施しているため、「3」と評価した。	3															
<u>ウ セカンドオピニオンの実施（小項目）</u> セカンドオピニオン（診断や治療方針について主治医以外の医師から意見を聞くこと。）を実施するとともに、市立病院の患者が、他の医療機関でのセカンドオピニオンを希望する場合には、適切に支援します。	<u>ウ セカンドオピニオンの実施（小項目）</u> ・セカンドオピニオンの実施及び他の医療機関を希望する患者の適切な支援	<p>【セカンドオピニオンの実施及び他の医療機関を希望する患者の適切な支援】</p> <p>○ 各病院において、セカンドオピニオンを自由に依頼することができる旨を院内に掲示するとともに、ホームページにも掲載し、患者への周知を図った。</p> <p>(セカンドオピニオン件数(令和2年度)) ※()内は令和元年度</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>区分</th> <th>病院が受けた件数</th> <th>他院を紹介した件数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>広島市民病院</td> <td>85件(110件)</td> <td>71件(98件)</td> </tr> <tr> <td>安佐市民病院</td> <td>0件(2件)</td> <td>19件(29件)</td> </tr> <tr> <td>舟入市民病院</td> <td>—</td> <td>3件(2件)</td> </tr> <tr> <td>リハビリテーション病院</td> <td>—</td> <td>—</td> </tr> </tbody> </table>	区分	病院が受けた件数	他院を紹介した件数	広島市民病院	85件(110件)	71件(98件)	安佐市民病院	0件(2件)	19件(29件)	舟入市民病院	—	3件(2件)	リハビリテーション病院	—	—	3	年度計画を順調に実施しているため、「3」と評価した。	3
区分	病院が受けた件数	他院を紹介した件数																		
広島市民病院	85件(110件)	71件(98件)																		
安佐市民病院	0件(2件)	19件(29件)																		
舟入市民病院	—	3件(2件)																		
リハビリテーション病院	—	—																		

中期計画	令和2年度	地方独立行政法人広島市立病院機構による自己評価				記号	市長による評価 評価理由・コメント等	記号																																																	
	年度計画	評価理由等																																																							
<u>工 クリニカルバスの活用拡大（小項目）</u> クリニカルバス（疾病別に退院までの治療内容を標準化した計画書）の活用を拡大するとともに、既存のクリニカルバスを適時見直し、良質な医療を安全、適正かつ効率的に提供します。	<u>工 クリニカルバスの活用拡大（小項目）</u> ・クリニカルバスの活用の拡大及び既存のクリニカルバスの検証・適時見直し	【クリニカルバスの活用の拡大及び既存のクリニカルバスの検証・適時見直し】 ○ 各病院とも、院内のクリニカルバス委員会において、クリニカルバスの活用拡大に努めた。広島市民病院では、看護師勉強会を開催しDPCについての理解を促進するとともに、既存のクリニカルバスの見直し・作成、適用率向上のための協議を行った結果、19件の新規バス作成、既存のバス10件を見直した。安佐市民病院では、新規に1件のバスを作成したほか、17件のバスの見直しを行った。また、バスをバリアンス分析方法により再検討し、バスの最適化を行った。舟入市民病院では新型コロナウイルス感染症のバス（大人用及び小人用）を作成し、活用した。	3	舟入市民病院以外の病院のクリニカルバスの適用率が年度計画を下回っているため、「2」と評価した。	2																																																				
【目標値】クリニカルバス適用率 (単位: %)	【目標値】クリニカルバス適用率 (単位: %)	【実績】クリニカルバス適用率 (単位: %)																																																							
<table border="1"> <thead> <tr> <th>区分</th> <th>平成28年度 実績</th> <th>令和3年度 目標値</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>広島市民病院</td> <td>49.9</td> <td>55.0</td> </tr> <tr> <td>安佐市民病院</td> <td>51.0</td> <td>55.0</td> </tr> <tr> <td>舟入市民病院</td> <td>38.9</td> <td>50.0</td> </tr> <tr> <td>リハビリテーション病院</td> <td>62.5</td> <td>64.0</td> </tr> </tbody> </table>	区分	平成28年度 実績	令和3年度 目標値	広島市民病院	49.9	55.0	安佐市民病院	51.0	55.0	舟入市民病院	38.9	50.0	リハビリテーション病院	62.5	64.0	<table border="1"> <thead> <tr> <th>区分</th> <th>令和2年度 目標値</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>広島市民病院</td> <td>54.0</td> </tr> <tr> <td>安佐市民病院</td> <td>54.0</td> </tr> <tr> <td>舟入市民病院</td> <td>46.0</td> </tr> <tr> <td>リハビリテーション病院</td> <td>64.0</td> </tr> </tbody> </table>	区分	令和2年度 目標値	広島市民病院	54.0	安佐市民病院	54.0	舟入市民病院	46.0	リハビリテーション病院	64.0	<table border="1"> <thead> <tr> <th>区分</th> <th>平成29年度 実績</th> <th>平成30年度 実績</th> <th>令和元年度 実績</th> <th>令和2年度 実績</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>広島市民病院</td> <td>51.9</td> <td>51.1</td> <td>51.1</td> <td>51.7</td> </tr> <tr> <td>安佐市民病院</td> <td>50.0</td> <td>52.2</td> <td>53.5</td> <td>52.5</td> </tr> <tr> <td>舟入市民病院</td> <td>54.2</td> <td>48.0</td> <td>47.8</td> <td>49.5</td> </tr> <tr> <td>リハビリテーション病院</td> <td>59.9</td> <td>62.0</td> <td>62.9</td> <td>60.0</td> </tr> </tbody> </table>	区分	平成29年度 実績	平成30年度 実績	令和元年度 実績	令和2年度 実績	広島市民病院	51.9	51.1	51.1	51.7	安佐市民病院	50.0	52.2	53.5	52.5	舟入市民病院	54.2	48.0	47.8	49.5	リハビリテーション病院	59.9	62.0	62.9	60.0					
区分	平成28年度 実績	令和3年度 目標値																																																							
広島市民病院	49.9	55.0																																																							
安佐市民病院	51.0	55.0																																																							
舟入市民病院	38.9	50.0																																																							
リハビリテーション病院	62.5	64.0																																																							
区分	令和2年度 目標値																																																								
広島市民病院	54.0																																																								
安佐市民病院	54.0																																																								
舟入市民病院	46.0																																																								
リハビリテーション病院	64.0																																																								
区分	平成29年度 実績	平成30年度 実績	令和元年度 実績	令和2年度 実績																																																					
広島市民病院	51.9	51.1	51.1	51.7																																																					
安佐市民病院	50.0	52.2	53.5	52.5																																																					
舟入市民病院	54.2	48.0	47.8	49.5																																																					
リハビリテーション病院	59.9	62.0	62.9	60.0																																																					
※適用率は、新入院患者のうちクリニカルバスを適用した患者の割合	※適用率は、新入院患者のうちクリニカルバスを適用した患者の割合	※適用率は、新入院患者のうちクリニカルバスを適用した患者の割合																																																							

第1 市民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する目標を達成するためとるべき措置

3 患者の視点に立った医療の提供

(4) 患者サービスの向上

中期目標	常に患者やその家族の立場を考え、温かく心のこもった応対ができるよう、職員の接遇の一層の向上を図ること。また、患者等のニーズを的確に捉え、療養環境の改善や待ち時間の短縮などに取り組むとともに、患者満足度の高いよりきめ細やかなサービスの提供に努めること。
-------------	---

中期計画	令和2年度	地方独立行政法人広島市立病院機構による自己評価	市長による評価		
	年度計画	評価理由等	記号	評価理由・コメント等	記号
(4) 患者サービスの向上（小項目）	(4) 患者サービスの向上（小項目）	<p>【接遇研修等の実施】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 広島市民病院では、接遇・身だしなみ自己チェックの実施、接遇研修会においては資料配布、全部署への冊子「さわやかマナー」の配付を行い、接遇対応能力の向上に取り組んだ。 また、患者及び家族等の負担軽減を図るため、入院患者が入院生活に必要な物品を洗濯付きで貸与する「入院セットサービス」システムを導入した。 ○ 安佐市民病院では、令和2年度の年間目標を「マスク越し こころ伝える挨拶」と定め、新型コロナウイルスの感染防止に配慮しながら、挨拶運動の代わりに期間中は電子カルテの待ち受け画面に標語等を表示させる等、工夫をして接遇の向上に取り組んだ。 ○ 舟入市民病院では、病院全職員に対し、「ビジネスマナー・チェックリスト」と題して、接遇研修を実施した。また、看護科の患者サービス委員会が中心となって、入院患者と外来患者を対象に接遇に関するアンケートの実施や接遇標語を毎月紹介し、接遇の向上に取り組んだ。 ○ リハビリテーション病院では、挨拶・声掛けを目標として掲げ（各執務室に目標を掲示）、接遇に取り組んでおり、令和3年1月には新たに「さわやかあいさつ運動」を実施した。 また、患者及び家族等の負担軽減を図るため、令和3年度から紙おむつ及びタオルセットの提供サービスを開始することとし、令和2年度は公募型プロポーザルによりサービス提供業者を選定した。 さらに、リハビリテーション病院では、新型コロナウイルス感染症の感染防止に伴う面会制限や外出・外泊制限が続く入院患者や入所者を元気づけるため、令和2年12月に広島市消防音楽隊、令和3年3月に広島市立沼田高校吹奏楽部の演奏動画を病棟及び自立訓練施設で上映した。 <p>【アンケート調査結果を踏まえた対応の検討、実施】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 広島市民病院では、令和2年10月に入院患者と外来患者を対象とした患者ア 	3	アンケート結果を踏まえて取組を行い、病院給食等の改善を行っており、年度計画を順調に実施していると認められるため、「3」と評価した。 引き続き、患者の満足度向上の取組を進めること。	3

中期計画	令和2年度	地方独立行政法人広島市立病院機構による自己評価		市長による評価		
	年度計画	評価理由等	記号	評価理由・コメント等	記号	
	<p>まえた対応の検討、実施</p> <p>・外来の診察・検査・会計の待ち時間の短縮に向けた改善方策の検討、実施</p> <p>・病院給食についてのアンケート調査の実施及び委託業者と連携した改善方策の検討、実施</p>	<p>ンケートを実施し、アンケート結果をとりまとめ、医療の質改善委員会で報告を行い、幹部会、部長会及び看護師長会を通じて院内に周知を図った。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 安佐市民病院では、入院患者は年間を通じて、外来患者は令和2年11月に、患者満足度アンケート調査を実施した。調査結果（入院患者分は月単位で取りまとめ）については、院内で情報共有を行い、待ち時間の短縮など各部門における運用の見直しや患者サービスの向上に関する取組の参考データとして活用した。 ○ 舟入市民病院では、令和3年3月に患者満足度アンケート調査を実施し、患者サービス委員会において調査結果を踏まえた対応を検討している。 ○ リハビリテーション病院では、患者満足度アンケート調査を年2回実施し、調査結果をホームページで公表した。また、院内のサービス向上委員会で調査結果を踏まえた対応を検討した。 <p>【外来の診察・検査・会計の待ち時間の短縮に向けた改善方策の検討、実施】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 広島市民病院では、令和2年3月に採血ブース等の拡張工事（3ブース増設）を行い、昨年度に引き続き、増設したブースを効率的に使用することで、中央処置室での採血の待ち時間の短縮に取り組んだ。 ○ 安佐市民病院では、外来待ち時間の実態調査を令和2年11月に実施した。外来待ち時間短縮の取組のうち、採血待ち時間の短縮とパイロット診療科の診察待ち時間の短縮をターゲットとした。採血待ち時間は平均8分に短縮し、質も担保できた。 ○ 舟入市民病院では、待ち時間の長い年末年始救急診療期間について、期間中の配置職員の見直しなどにより、時間短縮に取り組んだ。 <p>【病院給食についてのアンケート調査の実施及び委託業者と連携した改善方策の検討、実施】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 広島市民病院では、令和2年10月に患者アンケート調査を①味付け②品数③1品の量④盛りつけ⑤温度⑥全体の6項目で実施した結果、平均92.0%の満足度評価であった。 <p>委託業者と季節の果物やカット野菜の使用を取り入れるなどの調整を図り、冷凍の葉野菜の使用頻度の減少、食べやすさの改善を図った。また、人員配置、作業工程の見直しを業者と協議改善し、調理終了から提供までの時間の短縮に取り組んだ。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 安佐市民病院では、令和2年10月に患者アンケートを実施した結果、食事に対する評価は「良い」「やや良い」「ふつう」合わせて88%の評価であった（や 				

中期計画	令和2年度	地方独立行政法人広島市立病院機構による自己評価	市長による評価		
	年度計画	評価理由等	記号	評価理由・コメント等	記号
	<ul style="list-style-type: none"> ・病院給食の選択メニュー内容の検討、実施（広島市民病院） ・入退院支援の推進（広島市民病院、安佐市民病院） 	<p>や悪い：5% 悪い：2% 無回答：5%）。令和2年4月より給食業務の委託業者を変更したが、アンケート結果は前年度とほぼ同様の結果であった。令和2年4月の委託業者の交代時に新型コロナウイルス感染症患者の受け入れが始まり、病棟再編による食数の大幅な減少や配膳ルートの変更、配下膳のルール決め（看護部との調整）等を、委託業者と協力し実施した。令和2年12月には、適切な栄養量の配膳のための容器変更を行い、さらに新型コロナウイルス感染症の入院患者が第3波により大幅に増加したため、通常の給食業務にも支障のないようディスポ容器専用の献立を確立した。また、袋詰作業までの配膳を委託業者と調整し、令和3年1月末から実施した。</p> <p>○ 舟入市民病院では、令和2年8月に患者アンケートを実施した結果、満足と応えた割合は96%であった。昨年度と比較し青菜の硬さについての評価は、ちょうど良い52.9%→75.8%、硬い26.5%→6.0%と改善している。冷凍食品について、給食業務委託業者と採用食品の見直しや調理工夫を行った。</p> <p>○ リハビリテーション病院では、年1回全患者を対象に嗜好調査を実施し、意見を反映した献立の変更・追加を行うとともに、委託業者と連携し盛り付けの順番を見直すなど業務の改善を図っており、令和2年度は選択メニュー制（月1回）を導入した。</p> <p>また、患者満足度アンケート調査では、食事についてアンケートの質問ごとに、回答内容を「良い」=5点、「やや良い」=4点、「やや悪い」=2点、「悪い」=1点として換算して平均点を算出しており、「料理全体の印象」についての点数は5点満点中4.14点であった。</p> <p>【病院給食の選択メニュー内容の検討、実施】</p> <p>○ 広島市民病院では、令和2年度は化学療法食の内容を検討し、メニューの変更を行うとともに、レシピの変更等も行った。</p> <p>【入退院支援の推進】</p> <p>○ 広島市民病院では、地域の医療機関からのスムーズな患者の受入れとともに、オンラインカンファレンスを試み、積極的に患者の退院後の生活支援にも取り組んだ。</p> <p>○ 広島市民病院では、入院支援室を通じて、地域の歯科医との連携（周術期患者の紹介）の強化を継続し、口腔機能の管理による合併症予防に取り組んだ。また、薬剤師外来を併設し、かかりつけ薬局との連携に取り組んだ。</p> <p>○ 広島市民病院では、入退院支援2,345件、退院時共同指導76件を実施した。</p> <p>○ 広島市民病院では、入院患者が入院生活に必要な物品を洗濯付きで貸与する</p>			

中期計画	令和2年度	地方独立行政法人広島市立病院機構による自己評価				市長による評価																																																																												
	年度計画	評価理由等			記号	評価理由・コメント等	記号																																																																											
		<p>「入院セットサービス」システムを導入した。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 安佐市民病院では、令和元年度に引き続き、地域の医療機関からのスマートな患者の受け入れ、退院後の地域の医療機関への紹介に取り組むとともに、より積極的に患者の退院後の生活支援に取り組んだ。 ○ 安佐市民病院では、地域の医科歯科連携の継続や術前データの管理、薬剤師、栄養士と連携した入院前からの支援を充実させた。入退院支援を 3,231 件、退院時共導指導 59 件を実施した。 																																																																																
【目標値】患者満足度（単位：%）	【目標値】患者満足度（単位：%）	【実績】患者満足度 (単位：%)	【実績】患者満足度 (単位：%)	【実績】患者満足度 (単位：%)	【実績】患者満足度 (単位：%)	【実績】患者満足度 (単位：%)	【実績】患者満足度 (単位：%)																																																																											
<table border="1"> <thead> <tr> <th>区分</th> <th>平成28年度 実績</th> <th>令和3年度 目標値</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>広島市民病院</td> <td>90.9</td> <td>90.0</td> </tr> <tr> <td>安佐市民病院</td> <td>82.7</td> <td>90.0</td> </tr> <tr> <td>舟入市民病院</td> <td>76.8</td> <td>90.0</td> </tr> <tr> <td>リハビリテーション病院</td> <td>96.1</td> <td>95.0</td> </tr> </tbody> </table>	区分	平成28年度 実績	令和3年度 目標値	広島市民病院	90.9	90.0	安佐市民病院	82.7	90.0	舟入市民病院	76.8	90.0	リハビリテーション病院	96.1	95.0	<table border="1"> <thead> <tr> <th>区分</th> <th>令和2年度 目標値</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>広島市民病院</td> <td>90.0</td> </tr> <tr> <td>安佐市民病院</td> <td>88.0</td> </tr> <tr> <td>舟入市民病院</td> <td>86.0</td> </tr> <tr> <td>リハビリテーション病院</td> <td>95.0</td> </tr> </tbody> </table>	区分	令和2年度 目標値	広島市民病院	90.0	安佐市民病院	88.0	舟入市民病院	86.0	リハビリテーション病院	95.0	<table border="1"> <thead> <tr> <th>区分</th> <th>平成29年度 実績</th> <th>平成30年度 実績</th> <th>令和元年度 実績</th> <th>令和2年度 実績</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>広島市民病院</td> <td>83.1</td> <td>93.0</td> <td>94.3</td> <td>93.2</td> </tr> <tr> <td>安佐市民病院</td> <td>74.3</td> <td>71.4</td> <td>92.1</td> <td>91.3</td> </tr> <tr> <td>舟入市民病院</td> <td>79.5</td> <td>79.8</td> <td>80.4</td> <td>74.9</td> </tr> <tr> <td>リハビリテーション病院</td> <td>96.6</td> <td>96.3</td> <td>93.4</td> <td>97.4</td> </tr> </tbody> </table>	区分	平成29年度 実績	平成30年度 実績	令和元年度 実績	令和2年度 実績	広島市民病院	83.1	93.0	94.3	93.2	安佐市民病院	74.3	71.4	92.1	91.3	舟入市民病院	79.5	79.8	80.4	74.9	リハビリテーション病院	96.6	96.3	93.4	97.4	<table border="1"> <thead> <tr> <th>区分</th> <th>平成29年度 実績</th> <th>平成30年度 実績</th> <th>令和元年度 実績</th> <th>令和2年度 実績</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>広島市民病院</td> <td>83.1</td> <td>93.0</td> <td>94.3</td> <td>93.2</td> </tr> <tr> <td>安佐市民病院</td> <td>74.3</td> <td>71.4</td> <td>92.1</td> <td>91.3</td> </tr> <tr> <td>舟入市民病院</td> <td>79.5</td> <td>79.8</td> <td>80.4</td> <td>74.9</td> </tr> <tr> <td>リハビリテーション病院</td> <td>96.6</td> <td>96.3</td> <td>93.4</td> <td>97.4</td> </tr> </tbody> </table>	区分	平成29年度 実績	平成30年度 実績	令和元年度 実績	令和2年度 実績	広島市民病院	83.1	93.0	94.3	93.2	安佐市民病院	74.3	71.4	92.1	91.3	舟入市民病院	79.5	79.8	80.4	74.9	リハビリテーション病院	96.6	96.3	93.4	97.4	<p>※病院の対応に「満足」と回答した利用者の割合</p>	<p>※病院の対応に「満足」と回答した利用者の割合</p>	<p>※病院の対応に「満足」と回答した利用者の割合</p>	<p>※病院の対応に「満足」と回答した利用者の割合</p>
区分	平成28年度 実績	令和3年度 目標値																																																																																
広島市民病院	90.9	90.0																																																																																
安佐市民病院	82.7	90.0																																																																																
舟入市民病院	76.8	90.0																																																																																
リハビリテーション病院	96.1	95.0																																																																																
区分	令和2年度 目標値																																																																																	
広島市民病院	90.0																																																																																	
安佐市民病院	88.0																																																																																	
舟入市民病院	86.0																																																																																	
リハビリテーション病院	95.0																																																																																	
区分	平成29年度 実績	平成30年度 実績	令和元年度 実績	令和2年度 実績																																																																														
広島市民病院	83.1	93.0	94.3	93.2																																																																														
安佐市民病院	74.3	71.4	92.1	91.3																																																																														
舟入市民病院	79.5	79.8	80.4	74.9																																																																														
リハビリテーション病院	96.6	96.3	93.4	97.4																																																																														
区分	平成29年度 実績	平成30年度 実績	令和元年度 実績	令和2年度 実績																																																																														
広島市民病院	83.1	93.0	94.3	93.2																																																																														
安佐市民病院	74.3	71.4	92.1	91.3																																																																														
舟入市民病院	79.5	79.8	80.4	74.9																																																																														
リハビリテーション病院	96.6	96.3	93.4	97.4																																																																														

第1 市民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する目標を達成するためとるべき措置

4 地域の医療機関等との連携

(1) 地域の医療機関との役割分担と連携

中期目標	<p>ア 地域全体でより良い医療を提供する観点から、基幹病院等のみならず、かかりつけ医を始めとする地域の医療機関との適切な役割分担と連携を図ること。</p> <p>イ 地域連携クリニカルパス（治療を行う複数の医療機関が治療方針を共有するための診療計画書）を作成・運用するとともに、他の医療機関との診療情報の共有化などにより、急性期から回復期、在宅医療までの一貫性のある医療を提供すること。</p>
------	--

中期計画	令和2年度	地方独立行政法人広島市立病院機構による自己評価		市長による評価	
	年度計画	評価理由等	記号	評価理由・コメント等	記号
4 地域の医療機関等との連携 <u>(大項目)</u>	4 地域の医療機関等との連携 <u>(大項目)</u>				
(1) 地域の医療機関との役割分担と連携	(1) 地域の医療機関との役割分担と連携				
ア 病院の役割分担に基づく紹介、逆紹介の促進等（小項目） 地域の医療機関や医師会との連携を強化し、地域の医療機関との適切な役割分担の下、紹介患者の受け入れ、患者の紹介を積極的に行って、より多くの患者に必要とされる医療を提供する体制の維持に努めます。また、基幹病院をはじめとする病院間の医療機能の分化と連携等については、市民にとってより良い地域医療を提供していくという観点に立って検討を行います。	ア 病院の役割分担に基づく紹介、逆紹介の促進等（小項目） ・各地区の医師会との意見交換の場の設置などによる顔の見える連携づくり ・医療支援センター等による連携の強化	<p>【各地区医師会との連携】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 各病院とも、地区医師会との交流、意見交換の場を通じて連携を深めた。 ○ 広島市民病院では、地域医療機関との合同で、地域医療機関と広島市民病院の職員を対象に、日常診療における広い知識の習得を目的として、マルチケニアフォーラムを行った。 ○ 安佐市民病院では、安佐医師会、安芸高田市医師会、山県郡医師会、安佐歯科医師会との情報・意見交換会を例年実施しているが、新型コロナウィルス感染症の影響により、令和2年度は実施できなかった。 ○ 舟入市民病院では、中区医師会との連絡会議（4回開催）に出席して意見交換を行った。 <p>【医療支援センター等による連携の強化等】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 各病院とも、地域の医療機関からのスムーズな患者の受け入れ、退院後の地域の医療機関への紹介に取り組むとともに、より積極的に患者の退院後の生活支援に取り組んだ。 ○ 広島市民病院では、入院支援室を通じて、地域の歯科医との連携（周術期患者の紹介）強化を継続し、口腔機能の管理による合併症予防に取り組んだ。また、薬剤師外来を併設し、かかりつけ薬局との連携に取り組んだ。 ○ 広島市民病院では、入退院支援加算を2,345件、退院時共同指導を76件実施した。 	4	患者紹介率・逆紹介率とも年度計画の目標値を上回っているため「4」と評価した。	4

中期計画	令和 2 年度	地方独立行政法人広島市立病院機構による自己評価 評価理由等	市長による評価																																																																			
	年度計画		記号	評価理由・コメント等																																																																		
		<ul style="list-style-type: none"> ○ 安佐市民病院では、入退院支援加算 1 を令和 2 年度は 3,231 件実施した。社会背景が複雑な患者や多くの医療処置を必要とする患者の退院を支援するために、入院支援センター・外来と連携した入院前カンファレンス・入院時支援を実施すると共に、退院前の地域・関連医療機関との合同カンファレンスを 62 件、介護支援連携を 112 件、退院直後の在宅訪問を 17 件実施した。 ○ 舟入市民病院では、医療支援室の医療ソーシャルワーカーや看護師業務配分を見直し、入退院支援の充実を図るとともに、退院前訪問指導を開始した。また、医療支援室職員が、地域の訪問看護ステーション等への訪問を、延べ 63 件行い積極的に連携作りを行った。 <p>【広島県基幹病院連携強化実行委員会への参加】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 令和 2 年度は会議が開催されなかったが、市民にとってより良い地域医療を提供していくために、基幹病院をはじめとする病院間の医療機能の分化と連携について検討を進めた。 <p>【実績】患者紹介率（地域の医療機関から市立病院への紹介） (単位：%)</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th>区分</th> <th>平成 29 年度 実績</th> <th>令和 3 年度 目標値</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>広島市民病院</td> <td>70.0</td> <td>74.0</td> </tr> <tr> <td>安佐市民病院</td> <td>80.3</td> <td>82.5</td> </tr> <tr> <td>舟入市民病院</td> <td>31.0</td> <td>35.0</td> </tr> </tbody> </table> <p>※紹介率＝初診紹介患者の数／(初診患者の数 - (救急車による初診搬送患者の数 + 時間外における初診外来患者の数)) × 100</p> <p>【目標値】患者紹介率（地域の医療機関から市立病院への紹介）(単位：%)</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th>区分</th> <th>令和 2 年度 目標値</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>広島市民病院</td> <td>73.0</td> </tr> <tr> <td>安佐市民病院</td> <td>82.0</td> </tr> <tr> <td>舟入市民病院</td> <td>34.0</td> </tr> </tbody> </table> <p>※紹介率＝初診紹介患者の数／(初診患者の数 - (救急車による初診搬送患者の数 + 時間外における初診外来患者の数)) × 100</p> <p>【実績】患者紹介率（地域の医療機関から市立病院への紹介） (単位：%)</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th>区分</th> <th>平成 29 年度 実績</th> <th>平成 30 年度 実績</th> <th>令和元年度 実績</th> <th>令和 2 年度 実績</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>広島市民病院</td> <td>71.8</td> <td>73.7</td> <td>74.9</td> <td>75.8</td> </tr> <tr> <td>安佐市民病院</td> <td>85.2</td> <td>89.9</td> <td>89.5</td> <td>92.2</td> </tr> <tr> <td>舟入市民病院</td> <td>31.9</td> <td>35.6</td> <td>41.3</td> <td>36.2</td> </tr> </tbody> </table> <p>※紹介率＝初診紹介患者の数／(初診患者の数 - (救急車による初診搬送患者の数 + 時間外における初診外来患者の数)) × 100</p> <p>【目標値】患者逆紹介率（市立病院から地域の医療機関への紹介）(単位：%)</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th>区分</th> <th>令和 2 年度 目標値</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>広島市民病院</td> <td>94.8</td> </tr> <tr> <td>安佐市民病院</td> <td>100.0</td> </tr> <tr> <td>舟入市民病院</td> <td>27.5</td> </tr> </tbody> </table> <p>【実績】患者逆紹介率（市立病院から地域の医療機関への紹介） (単位：%)</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th>区分</th> <th>平成 29 年度 実績</th> <th>平成 30 年度 実績</th> <th>令和元年度 実績</th> <th>令和 2 年度 実績</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>広島市民病院</td> <td>94.7</td> <td>94.4</td> <td>98.6</td> <td>111.9</td> </tr> <tr> <td>安佐市民病院</td> <td>130.8</td> <td>137.1</td> <td>140.6</td> <td>152.1</td> </tr> <tr> <td>舟入市民病院</td> <td>22.9</td> <td>24.8</td> <td>28.4</td> <td>30.9</td> </tr> </tbody> </table>	区分	平成 29 年度 実績	令和 3 年度 目標値	広島市民病院	70.0	74.0	安佐市民病院	80.3	82.5	舟入市民病院	31.0	35.0	区分	令和 2 年度 目標値	広島市民病院	73.0	安佐市民病院	82.0	舟入市民病院	34.0	区分	平成 29 年度 実績	平成 30 年度 実績	令和元年度 実績	令和 2 年度 実績	広島市民病院	71.8	73.7	74.9	75.8	安佐市民病院	85.2	89.9	89.5	92.2	舟入市民病院	31.9	35.6	41.3	36.2	区分	令和 2 年度 目標値	広島市民病院	94.8	安佐市民病院	100.0	舟入市民病院	27.5	区分	平成 29 年度 実績	平成 30 年度 実績	令和元年度 実績	令和 2 年度 実績	広島市民病院	94.7	94.4	98.6	111.9	安佐市民病院	130.8	137.1	140.6	152.1	舟入市民病院	22.9	24.8	28.4	30.9
区分	平成 29 年度 実績	令和 3 年度 目標値																																																																				
広島市民病院	70.0	74.0																																																																				
安佐市民病院	80.3	82.5																																																																				
舟入市民病院	31.0	35.0																																																																				
区分	令和 2 年度 目標値																																																																					
広島市民病院	73.0																																																																					
安佐市民病院	82.0																																																																					
舟入市民病院	34.0																																																																					
区分	平成 29 年度 実績	平成 30 年度 実績	令和元年度 実績	令和 2 年度 実績																																																																		
広島市民病院	71.8	73.7	74.9	75.8																																																																		
安佐市民病院	85.2	89.9	89.5	92.2																																																																		
舟入市民病院	31.9	35.6	41.3	36.2																																																																		
区分	令和 2 年度 目標値																																																																					
広島市民病院	94.8																																																																					
安佐市民病院	100.0																																																																					
舟入市民病院	27.5																																																																					
区分	平成 29 年度 実績	平成 30 年度 実績	令和元年度 実績	令和 2 年度 実績																																																																		
広島市民病院	94.7	94.4	98.6	111.9																																																																		
安佐市民病院	130.8	137.1	140.6	152.1																																																																		
舟入市民病院	22.9	24.8	28.4	30.9																																																																		

中期計画	令和2年度	地方独立行政法人広島市立病院機構による自己評価				市長による評価																																												
	年度計画	評価理由等			記号	評価理由・コメント等	記号																																											
※1 患者逆紹介率=逆紹介患者の数／(初診患者の数-(救急車による初診搬送+時間外における初診外来患者の数))×100	※1 患者逆紹介率=逆紹介患者の数／(初診患者の数-(救急車による初診搬送+時間外における初診外来患者の数))×100	※患者逆紹介率=逆紹介患者の数／(初診患者の数-(救急車による初診搬送+時間外における初診外来患者の数))×100 ○ 3病院において、紹介率・逆紹介率とも目標を達成した。																																																
※2 当該年度の逆紹介患者の数には、当該年度以前からの診療期間の長い患者も含まれるため、当該年度の初診患者の数を上回り、逆紹介率が100%を超える場合がある。	※2 当該年度の逆紹介患者の数には、当該年度以前からの診療期間の長い患者も含まれるため、当該年度の初診患者の数を上回り、逆紹介率が100%を超える場合がある。																																																	
<u>イ 地域連携クリニカルバスの運用拡大（小項目）</u> 一貫性のある医療を提供し、治療効果の一層の向上を図るため、地域連携クリニカルバス（治療を行う複数の医療機関が治療方針を共有するための診療計画書）の作成・運用の拡大に取り組みます。	<u>イ 地域連携クリニカルバスの運用拡大（小項目）</u> ・地域の医療機関と連携した地域連携クリニカルバスの運用の見直し	【地域連携クリニカルバスの運用の見直し】 ○ 各病院とも、地域連携クリニカルバスの運用の拡大等に取り組んだ。 ○ 広島市民病院では、地域連携クリニカルバスの運用を拡大するため、医療者がん研修会（年4回）、がんセミナー（年3回）、マルチケアフォーラム（年1回）を定期的に開催し、連携病院に参加の案内を呼びかけ、研修会等を通じて参加者と同病院との医療連携を深めた。また、がん患者を紹介する際、紹介先の医療機関に対しがん連携病院の登録を呼びかけた。 ○ 安佐市民病院では、年に8回、地域の開業医・勤務医等と合同で研修会を実施して、地域連携クリニカルバスの運用の拡大に努めた。 ○ リハビリテーション病院では、地域連携活動を継続して実施することにより、地域連携クリニカルバス対象疾患（脳卒中・大腿骨頸部骨折）患者の紹介入院の増加に努めた。 (地域連携クリニカルバスの種類及び運用件数)	(各年度3月末現在 単位：件)	3	年度計画を順調に実施しているため、「3」と評価した。	3																																												
		<table border="1"> <thead> <tr> <th rowspan="2">区分</th> <th colspan="2">平成29年度</th> <th colspan="2">平成30年度</th> <th colspan="2">令和元年度</th> <th colspan="2">令和2年度</th> </tr> <tr> <th>種類 件数</th> <th>運用 件数</th> <th>種類 件数</th> <th>運用 件数</th> <th>種類 件数</th> <th>運用 件数</th> <th>種類 件数</th> <th>運用 件数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>広島市民病院</td> <td>10</td> <td>448</td> <td>11</td> <td>534</td> <td>10</td> <td>570</td> <td>10</td> <td>539</td> </tr> <tr> <td>安佐市民病院</td> <td>11</td> <td>461</td> <td>11</td> <td>499</td> <td>12</td> <td>483</td> <td>12</td> <td>430</td> </tr> <tr> <td>リハビリテーション病院</td> <td>2</td> <td>148</td> <td>2</td> <td>188</td> <td>2</td> <td>185</td> <td>2</td> <td>178</td> </tr> </tbody> </table>	区分	平成29年度		平成30年度		令和元年度		令和2年度		種類 件数	運用 件数	種類 件数	運用 件数	種類 件数	運用 件数	種類 件数	運用 件数	広島市民病院	10	448	11	534	10	570	10	539	安佐市民病院	11	461	11	499	12	483	12	430	リハビリテーション病院	2	148	2	188	2	185	2	178				
区分	平成29年度			平成30年度		令和元年度		令和2年度																																										
	種類 件数	運用 件数	種類 件数	運用 件数	種類 件数	運用 件数	種類 件数	運用 件数																																										
広島市民病院	10	448	11	534	10	570	10	539																																										
安佐市民病院	11	461	11	499	12	483	12	430																																										
リハビリテーション病院	2	148	2	188	2	185	2	178																																										

第1 市民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する目標を達成するためとるべき措置

4 地域の医療機関等との連携
(2) 地域の医療機関への支援

中期目標	ア 市立病院が保有する高度医療機器の共同利用などにより、地域の医療機関を支援すること。また、地域の医療従事者を対象としたオープンカンファレンス等各種研修会の開催などにより、地域の医療人材の育成に努めること。
	イ 安佐市民病院の北館に整備する病院（以下「北館の病院」という。）等の関係医療機関への医師の派遣等に取り組むとともに、北館の病院が本市の医療政策を支える病院として、建替え後の安佐市民病院と連携して地域医療を担うことができるよう、本市や関係機関と協議の上、北館の病院に十分な支援を行うこと。
	ウ 建替え後の安佐市民病院は、県北西部地域の公立病院等とのネットワークの中で中核病院としての役割を果たしていくことを踏まえ、地域完結型医療の提供に向けた取組を進めるこ。

中期計画	令和2年度	地方独立行政法人広島市立病院機構による自己評価 評価理由等	市長による評価																											
	年度計画		記号	評価理由・コメント等																										
(2) 地域の医療機関への支援	(2) 地域の医療機関への支援																													
ア 高度医療機器の共同利用 <u>(小項目)</u> 市立病院が保有する高度医療機器の共同利用の促進により、地域の医療水準の向上を図ります。また、地域の医療従事者を対象としたオープンカンファレンス等各種研修会等を開催し、市立病院における症例や医療技術等の医療情報を提供することなどにより、地域の医療人材の育成に協力するとともに、「顔の見える連携関係」を構築します。	ア 高度医療機器の共同利用 <u>(小項目)</u> ・高度医療機器の共同利用の促進による地域の医療水準の向上	<p>【高度医療機器の共同利用等の促進による地域の医療水準の向上】</p> <p>○ 令和2年度は以下のとおり、地域の医療機関による高度医療機器の共同利用が行われた。</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th colspan="5">(令和2年度高度医療機器共同利用件数) (件)</th> </tr> <tr> <th>区分</th> <th>C T</th> <th>M R I</th> <th>その他</th> <th>合計</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>広島市民病院</td> <td>171</td> <td>79</td> <td>16</td> <td>266</td> </tr> <tr> <td>安佐市民病院</td> <td>945</td> <td>312</td> <td>534</td> <td>1,791</td> </tr> <tr> <td>リハビリテーション病院</td> <td>—</td> <td>—</td> <td>—</td> <td>—</td> </tr> </tbody> </table> <p>(注) その他の主な内訳は、胃カメラ・胃ろう交換など</p> <p>○ 開放型病床は、広島市民病院に34床設けており、利用登録している地域の医療機関の医師数は令和2年度末で252人、令和2年度の病床利用率は45.2%であった。また、開放病床運営委員会を書面開催し、活用の促進等について協議、検討を行った。安佐市民病院では9床を設けており、利用登録している地域の医療機関の医師数は令和2年度末で383人、利用率は100%であった。舟入市民病院では5床を設けており、利用登録している地域の医療機関の医師数は令和2年度末で63人、利用率は84.4%であった。</p>	(令和2年度高度医療機器共同利用件数) (件)					区分	C T	M R I	その他	合計	広島市民病院	171	79	16	266	安佐市民病院	945	312	534	1,791	リハビリテーション病院	—	—	—	—	2	新型コロナウイルス感染症の影響により、一部の取組を中止したこと等を除いて、WE B会議により芸北地域の医療機関と意見交換を行うなど、年度計画を順調に実施していると認められるため、「3」と評価した。	3
(令和2年度高度医療機器共同利用件数) (件)																														
区分	C T	M R I	その他	合計																										
広島市民病院	171	79	16	266																										
安佐市民病院	945	312	534	1,791																										
リハビリテーション病院	—	—	—	—																										

中期計画	令和2年度	地方独立行政法人広島市立病院機構による自己評価				市長による評価																																		
	年度計画	評価理由等			記号	評価理由・コメント等	記号																																	
	<ul style="list-style-type: none"> ・地域の医療従事者を対象とした各種研修会等の開催 	<p>【各種研修会等の開催】</p> <p>○ 令和2年度は以下のとおり、各病院において研修会等及びオープンカンファレンスを開催した。</p> <p>(令和2年度研修会等・オープンカンファレンスの開催状況)</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse; text-align: center;"> <thead> <tr> <th rowspan="2">区分</th> <th colspan="2">研修会等</th> <th colspan="2">オープンカンファレンス</th> </tr> <tr> <th>回数</th> <th>延べ参加者数</th> <th>回数</th> <th>延べ参加者数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>広島市民病院</td> <td>9回</td> <td>754人</td> <td>4回</td> <td>72人</td> </tr> <tr> <td>安佐市民病院</td> <td>—</td> <td>—</td> <td>—</td> <td>—</td> </tr> <tr> <td>舟入市民病院</td> <td>—</td> <td>—</td> <td>—</td> <td>—</td> </tr> <tr> <td>リハビリテーション病院</td> <td>—</td> <td>—</td> <td>—</td> <td>—</td> </tr> <tr> <td>計</td> <td>9回</td> <td>754人</td> <td>4回</td> <td>72人</td> </tr> </tbody> </table> <p>○ 安佐市民病院では、WEB会議システムを用いて芸北地域の関係病院及び診療所と意見交換を行った。</p> <p>○ リハビリテーション病院では、新型コロナウイルス感染症の感染防止のため、集合研修に代えて、地域の病院、介護施設、居宅サービス事業所等に向け、紙面によりリハビリテーションに関する情報提供を行った。</p>	区分	研修会等		オープンカンファレンス		回数	延べ参加者数	回数	延べ参加者数	広島市民病院	9回	754人	4回	72人	安佐市民病院	—	—	—	—	舟入市民病院	—	—	—	—	リハビリテーション病院	—	—	—	—	計	9回	754人	4回	72人				
区分	研修会等			オープンカンファレンス																																				
	回数	延べ参加者数	回数	延べ参加者数																																				
広島市民病院	9回	754人	4回	72人																																				
安佐市民病院	—	—	—	—																																				
舟入市民病院	—	—	—	—																																				
リハビリテーション病院	—	—	—	—																																				
計	9回	754人	4回	72人																																				
<u>イ 安佐市民病院の北館に整備する病院への支援（小項目）</u> 広島市や関係機関と協議の上、安佐市民病院の北館に整備する病院への医師の派遣等に取り組むとともに、当該整備する病院の円滑な開設に向けた建物の改修等の支援を行います。	<u>イ 安佐市民病院の北館に整備する病院への支援（小項目）</u> <ul style="list-style-type: none"> ・安佐市民病院の機能分化に伴い整備する安佐医師会病院（仮称）との連携に関する具体的な検討 ・北館に整備する病院の円滑な開設に向けた改修工事の実施 	<p>【安佐医師会病院（仮称）との連携に関する具体的な検討】</p> <p>○ 北部医療センター安佐市民病院と安佐医師会病院（仮称）の地域包括ケア病棟、緩和ケア病棟の連携について、患者抽出、病棟シミュレーションの実施検討を行った。北部医療センターにおける多職種カンファレンス、PFMの導入に向けた協議を開始した。また、看護師の転籍募集、内定決定を実施した。</p> <p>【北館に整備する病院の改修工事の実施】</p> <p>○ 令和3年3月10日に工事請負者と契約締結し工事に着手した。</p>	3	年度計画を順調に実施しているため、「3」と評価した。	3																																			

中期計画	令和2年度	地方独立行政法人広島市立病院機構による自己評価		市長による評価	
	年度計画	評価理由等	記号	評価理由・コメント等	記号
ウ 安佐市民病院における地域完結型医療の提供に向けた取組（小項目） 県北西部地域の関係機関と連携し、地域内の医療機関の役割分担と再編を行い、それぞれの医療機関が連携し相互補完を行う地域完結型の医療の提供に向けた取組を行います。	ウ 安佐市民病院における地域完結型医療の提供に向けた取組（小項目） ・地域医療構想調整会議北部病院部会への参画等による、地域完結型医療の提供体制の構築に向けた取組	<p>【安佐市民病院における地域完結型医療の提供に向けた取組】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 平成30年度に広島医療圏北部地域の公立・公的病院が担う役割を明確にするとともに、その役割を担うために行う病床の再編についてとりまとめを行った。さらにその内容を「地域医療構想調整会議北部病院部会」及び「地域医療構想調整会議」に協議し了承を得るとともに、「広島県医療審議会」の承認後、病床の再編上必要となる厚生労働省の同意を得た。 ○ また、地域完結型医療の提供に向けた取組として、北広島町と医療連携実施協定を結び、北広島町豊平病院（診療所）44床の無床化（平成31年4月）に大きく貢献した。 ○ 令和元年度に安佐市民病院に病院機能分化推進室を設置し、令和2年度においても安佐医師会（安佐医師会病院準備担当）とともに、地域完結型医療の提供体制の構築に向け北部医療センター安佐市民病院及び安佐医師会病院（仮称）開設に向けた具体的な検討を引き続き行った。 	3	年度計画を順調に実施しているため、「3」と評価した。	3

第1 市民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する目標を達成するためとるべき措置

4 地域の医療機関等との連携

(3) 保健機関、福祉機関との連携

中期目標	ア 保健所や福祉事務所等と連携して、疾病の予防や再発防止に取り組むこと。
	イ 病院を退院した患者が円滑に在宅医療に移行するための支援を行うこと。また、地域包括支援センターや介護サービス事業所等との連携を図ることで、地域包括ケアシステムの構築に取り組むこと。

中期計画	令和2年度	地方独立行政法人広島市立病院機構による自己評価 評価理由等	市長による評価	
	年度計画		記号	評価理由・コメント等
(3) 保健機関、福祉機関との連携	(3) 保健機関、福祉機関との連携			
<u>ア 保健機関、福祉機関との連携（小項目）</u> 高齢化の進展等に伴う疾病構造の変化に対応するため、保健所等と連携し、疾病的予防や再発防止等に取り組むとともに、退院前から地域包括支援センター、介護サービス事業所等と連携し、患者の退院後の療養や介護などを支援します。	<u>ア 保健機関、福祉機関との連携（小項目）</u> ・高齢化の進展等に伴う疾病構造の変化に対応するための保健所等との連携 【高齢化の進展等に伴う疾病構造の変化に対応するための保健所等との連携】 ○ 広島市民病院では、「救急医療コントロール機能運営協議会」に参画するなど、受入困難事案の総合的対策の調整に協力し、広島市、保健機関、福祉機関等との連携に努めた。 ○ 安佐市民病院では、保健センター（安佐南区・安佐北区）と精神障害者に係る事例検討会や情報交換会を新型コロナウイルス感染症対策により実施できなかったが、特定妊婦など複雑な家庭環境により育児が困難と予測される場合や高齢者虐待の疑われるケースなどについて、患者・家族の不安軽減や継続した支援・介入につながるよう保健センターと情報共有し連携を図った。 ○ 舟入市民病院では、広島市が実施する市政出前講座等でスキンケアに関する講習や感染症に関する講習、緩和ケアに関する講習、小児救急に関する講習を予定していたが、新型コロナウイルス感染症の影響により中止した。 ○ リハビリテーション病院では、広島市が実施する市政出前講座においてリハビリテーションや視覚障害についての講習・講演を3回行った。また、広島市の広報紙やテレビの情報番組で、リハビリテーション技術科職員が外出自粛中の高齢者に対する認知症予防の体操や健康維持のための取組について解説した。 ・退院前からの福祉機関との連携による患者の退院後の療養や介護などの支援 【退院前からの福祉機関との連携による患者の退院後の療養や介護などの支援】 ○ 各病院とも、福祉事務所や地域包括支援センター、介護サービス事業所等の福祉機関と連携し、患者の退院後の療養などの支援を行った。 ○ 広島市民病院では、中区医師会が実施する在宅医療相談支援窓口運営事業に後方支援病院として参加した。	2	新型コロナウイルス感染症の影響により、一部の取組を中止したこと等を除いて、地域包括支援センター等と連携し、患者の退院後の療養の支援を行うなど、年度計画を順調に実施していると認められるため、「3」と評価した。	

中期計画	令和2年度	地方独立行政法人広島市立病院機構による自己評価		市長による評価	
	年度計画	評価理由等	記号	評価理由・コメント等	記号
		<ul style="list-style-type: none"> ○ 安佐市民病院では、入院早期から介護保険施設や居宅介護支援事業所、障害者相談支援事業所等の福祉機関へ連絡し、同病院にて患者、家族及び福祉機関の担当者とカンファレンス等を行っている。そのカンファレンスで情報共有や連携を図りながら、患者、家族が安心して退院ができるよう支援を図った。 			
<u>イ 地域包括ケアシステムの構築に向けた的確な対応（小項目）</u> <p>高齢者が疾病を抱えても住み慣れた地域で生活を継続できるよう、地域包括ケアシステム構成員として、各病院が現在担っている機能を維持・強化するとともに、かかりつけ医を含めた地域の医療機関、施設、行政との連携を図り、患者・家族の療養生活を支援して包括的かつ継続的な在宅医療等の提供の一翼を担います。</p>	<u>イ 地域包括ケアシステムの構築に向けた的確な対応（小項目）</u> <p>・地域包括ケアシステム構成員としての各病院が担っている機能の維持・強化</p>	<p>【地域包括ケアシステム構成員としての各病院が担っている機能の維持・強化】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 関係機関との連携をよりスムーズに行うため、地域包括支援センター等との情報の交換、交流の場を設けた。特に安佐市民病院では、安佐北区や安佐南区の地域包括支援センター、居宅介護支援事業所、安佐北区役所厚生部健康長寿課、安佐医師会で構成する地域包括連携会議を設け、新型コロナウイルス感染症が流行している中で地域連携の方法を検討し、WEBでの情報の共有化を図った。 ○ 舟入市民病院においては、平成27年度途中から地域包括ケア病床（6階病棟のうち10床）を導入し運用していたが、新型コロナウイルス感染症患者の受け入れ体制を強化するため、令和2年3月7日より受入れを中止した。 また、地域の医療・介護力の質向上と地域の多職種との連携（ネットワーク作り）を目的に、多職種合同地域連携研修会を年3回計画していたが、新型コロナウイルス感染症対策により、実施できなかった。 ○ リハビリテーション病院では、広島市が実施する介護予防拠点など住民運営の「通いの場」の立上げ・運営の支援や、要支援者等に対する介護予防ケアマネジメントなどに、リハ職を派遣するため、安佐南区におけるリハ職の派遣調整を行う業務を広島市から受託し実施した。 また、令和元年度から、広島二次保健医療圏における「通いの場」設置の推進を目的として関係機関のネットワークを構築する事業を広島県から受託し、令和2年度も引き続き実施した。 令和2年度は、新型コロナウイルス感染症拡大の影響により、派遣先の事業が休止され令和元年度に比べて派遣調整人数が減少した。 	2	新型コロナウイルス感染症の影響により、一部の取組を中止したこと等を除いて、地域包括支援センターとWEBでの情報の共有化を図るなど、年度計画を順調に実施していると認められるため、「3」と評価した。	3

中期計画	令和2年度	地方独立行政法人広島市立病院機構による自己評価			市長による評価										
	年度計画	評価理由等		記号	評価理由・コメント等	記号									
	<ul style="list-style-type: none"> ・かかりつけ医を含めた地域の医療機関、施設、行政との連携を図り、包括的かつ継続的な在宅医療等の提供 ・中区医師会が実施する在宅医療相談支援窓口運営事業への参加（舟入市民病院） 	<p>(リハ職派遣調整業務の実績)</p> <p style="text-align: right;">※（ ）内は令和元年度</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th style="text-align: center;">区分</th> <th style="text-align: center;">令和2年度 派遣調整人数</th> <th style="text-align: center;">備考</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>介護予防拠点整備における支援</td> <td style="text-align: center;">72人(149人)</td> <td>うちリハビリテーション病院からの派遣人数 16人(40人)</td> </tr> <tr> <td>介護予防ケアマネジメントの支援</td> <td style="text-align: center;">4人(13人)</td> <td>うちリハビリテーション病院からの派遣人数 0人(2人)</td> </tr> </tbody> </table> <p>【かかりつけ医を含めた地域の医療機関、施設、行政との連携を図り、包括的かつ継続的な在宅医療等の提供】</p> <p>○ リハビリテーション病院では、地域の医療機関、介護サービス事業所等の従事者で構成する安佐南区回復期生活期連携推進の会に参加し、地域の医療機関及び介護サービス事業所等と連携することで、地域における在宅医療・介護の連携推進を図った。</p> <p>【在宅医療相談支援窓口運営事業への積極的な参加等（舟入市民病院）】</p> <p>○ 舟入市民病院では、中区医師会と協力し、中区在宅医療相談支援窓口運営事業へ参加しており、在宅からの緊急入院（サブアキュート）を積極的に受け入れ、引き続き地域に根ざした医療が提供できるよう連携した。</p>	区分	令和2年度 派遣調整人数	備考	介護予防拠点整備における支援	72人(149人)	うちリハビリテーション病院からの派遣人数 16人(40人)	介護予防ケアマネジメントの支援	4人(13人)	うちリハビリテーション病院からの派遣人数 0人(2人)				
区分	令和2年度 派遣調整人数	備考													
介護予防拠点整備における支援	72人(149人)	うちリハビリテーション病院からの派遣人数 16人(40人)													
介護予防ケアマネジメントの支援	4人(13人)	うちリハビリテーション病院からの派遣人数 0人(2人)													

第1 市民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する目標を達成するためとるべき措置

5 市立病院間の連携の強化

(1) 一つの病院群としての病院運営の推進

(2) 広島市立病院機構医療情報システムの運用

中期目標	ア 市立病院間の相互連携や効果的なマンパワーの活用による交流を進めることで、各病院の医療機能を補完するとともに、4病院が一つの病院群として、本市の医療施策上必要な医療を提供すること。特に、広島市民病院と舟入市民病院の連携強化により、効果的かつ効率的な病院運営を一層進めること。また、本市が指定管理者制度により運営している安芸市民病院とも、引き続き連携を図ること。
	イ 広島市立病院機構医療情報システム（電子カルテシステムを中心とした医療情報を電子化して総合的に活用するシステム）等の活用により、効率的で質の高い医療を提供すること。

中期計画	令和2年度	地方独立行政法人広島市立病院機構による自己評価 評価理由等	市長による評価	
	年度計画		記号	評価理由・コメント等
5 市立病院間の連携の強化（大項目）	5 市立病院間の連携の強化（大項目）			
<u>(1) 一つの病院群としての病院運営の推進（小項目）</u> <ul style="list-style-type: none"> ・市立病院が相互に連携し、各病院の医療機能を補完し合い、一つの病院群として、広島市の医療施策上必要な医療を提供するとともに、各病院の役割の見直しや連携強化などを進め、効果的かつ効率的な病院運営を行います。 ・病院間の人事交流など効果的なマンパワーを活用し、各病院が必要とする人材の育成や、病院間の連携を推進します。 ・広島市が指定管理者制度により運営している安芸市民病院との連携を図り、患者の受け入れや紹介を積極的に行います。 	<u>(1) 一つの病院群としての病院運営の推進（小項目）</u> <ul style="list-style-type: none"> ・効率的、効果的な病院運営 ・安佐南区の医療需要の動向等を踏まえた役割分担の下、広島市民病院と安佐市民病院との連携と協調 ・急性期から回復期までのリハビリテーションを継続的・一体的提供を図るため、リハビリテーション病院と広島市民病院及び安佐市民病院との連携強化 ・広島市民病院と舟入市民病院との連携強化 	<p>【効率的、効果的な病院運営】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 毎月、本部事務局及び各病院の病院長、看護部長・総看護師長、事務長が出席する経営会議を開催し、課題の検討、意思の統一化を図った。また、理事長は、毎月各病院をラウンドし、病院の現状把握及び現場での意見交換を行った。 ○ 広島市民病院と安佐市民病院から急性期医療を終えた患者をリハビリテーション病院で受け入れ、高度で専門的な回復期リハビリテーション医療を提供了した。令和2年度は広島市民病院から130人、安佐市民病院から80人の入院患者を受け入れたが、新型コロナウイルス感染症拡大の影響により、広島市民病院からの受入人数が34人減少、安佐市民病院からの受入人数が8人減少し、令和元年度を下回った。(全入院患者に占める割合も43.4%と、令和元年度の50.4%を下回った。) ○ リハビリテーション病院が外部委託していた画像診断業務について、広島市民病院とリハビリテーション病院の役割分担及び連携強化を図り、効率的な病院運営を行うため、令和2年4月から広島市民病院での診断に切り替えた。 ○ 広島市民病院と舟入市民病院の連携について、広島市民病院は舟入市民病院へ手術件数11件の紹介を行うとともに外科医の派遣を行った。また、舟入市民病院では、広島市民病院から急性期医療を終えた患者の受け入れを積極的に行い、令和2年度は211人の入院等患者を受け入れるとともに、MR I検査についても広島市民病院から155人の患者を受け入れた。 ○ 広島市民病院は、婦人科、脳神経外科・脳血管内治療科、眼科、放射線診断 	3	年度計画を順調に実施しているため、「3」と評価した。

中期計画	令和2年度	地方独立行政法人広島市立病院機構による自己評価		市長による評価																			
	年度計画	評価理由等	記号	評価理由・コメント等	記号																		
	・病院間の人事交流	<p>科の医師を舟入市民病院健康管理センターに延べ 235 人を派遣等し、様々な検査データの読影及び診断を行い、その運営を支援した。</p> <p>【病院間の人事交流】</p> <p>○ 職員の適性等を生かし、各病院運営の活性化を図るため、令和 2 年度は以下のとおり、病院間における異動を行った。</p> <p>(令和 2 年度病院間異動者数)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>区 分</th><th>異動者数</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>看護師</td><td>12 人</td></tr> <tr> <td>薬剤師</td><td>6 人</td></tr> <tr> <td>診療放射線技師</td><td>5 人</td></tr> <tr> <td>理学療法士</td><td>1 人</td></tr> <tr> <td>作業療法士</td><td>1 人</td></tr> <tr> <td>臨床検査技師</td><td>4 人</td></tr> <tr> <td>栄養士</td><td>3 人</td></tr> <tr> <td>計</td><td>32 人</td></tr> </tbody> </table>	区 分	異動者数	看護師	12 人	薬剤師	6 人	診療放射線技師	5 人	理学療法士	1 人	作業療法士	1 人	臨床検査技師	4 人	栄養士	3 人	計	32 人			
区 分	異動者数																						
看護師	12 人																						
薬剤師	6 人																						
診療放射線技師	5 人																						
理学療法士	1 人																						
作業療法士	1 人																						
臨床検査技師	4 人																						
栄養士	3 人																						
計	32 人																						
	・各病院の職員が協議、交流する部門会議の開催	<p>【各病院の職員が協議、交流する場づくり】</p> <p>○ 病院の枠を越えて、採用、職員配置、業務内容等の現状と課題等について、協議、交流、検討する場として、以下の職種について、各病院の責任者が出席する部門会議を開催した。</p> <p>【部門会議】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・看護師 ・薬剤師 ・臨床検査技師 ・診療放射線技師 ・理学療法士・作業療法士・言語聴覚士 ・臨床工学技士 ・栄養士 ・医療ソーシャルワーカー ・診療情報管理士 ・事務職 																					
	・安芸市民病院との連携	<p>【安芸市民病院との連携】</p> <p>○ 各病院において、安芸市民病院との連携強化、受入体制の強化を図ることにより、紹介・逆紹介を積極的に行った。</p>																					

中期計画	令和2年度	地方独立行政法人広島市立病院機構による自己評価			市長による評価																
	年度計画	評価理由等		記号	評価理由・コメント等	記号															
		(令和2年度安芸市民病院、紹介・逆紹介件数) <table border="1"> <thead> <tr> <th>区分</th> <th>安芸市民病院から の紹介件数</th> <th>安芸市民病院への 逆紹介件数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>広島市民病院</td> <td>28件</td> <td>93件</td> </tr> <tr> <td>安佐市民病院</td> <td>2件</td> <td>0件</td> </tr> <tr> <td>舟入市民病院</td> <td>17件</td> <td>4件</td> </tr> <tr> <td>計</td> <td>47件</td> <td>97件</td> </tr> </tbody> </table>	区分	安芸市民病院から の紹介件数	安芸市民病院への 逆紹介件数	広島市民病院	28件	93件	安佐市民病院	2件	0件	舟入市民病院	17件	4件	計	47件	97件				
区分	安芸市民病院から の紹介件数	安芸市民病院への 逆紹介件数																			
広島市民病院	28件	93件																			
安佐市民病院	2件	0件																			
舟入市民病院	17件	4件																			
計	47件	97件																			
(2) 広島市立病院機構医療情報システムの運用（小項目） 広島市立病院機構医療情報システム（電子カルテシステムを中心とした医療情報を電子化して総合的に活用するシステム）の運用等により、4病院間の診療情報の円滑な伝達や共有化を推進します。また、同システムを活用し、地域の医療機関との診療情報の共有化等を行います。	(2) 広島市立病院機構医療情報システムの運用（小項目） ・広島市立病院機構医療情報システムによる、4病院間の診療情報の円滑な伝達や共有化の推進 ・ひろしま医療情報ネットワークの活用による、地域の医療機関への市立病院の医療情報の提供	【4病院間の診療情報の円滑な伝達や共有化の推進】 ○ 平成27年度に更新等を実施した4病院の医療情報システムにおいて、電子カルテシステムを中心にシステムの円滑な運用を行い、4病院間の診療情報の円滑な伝達や共有化を推進した。 【地域の医療機関への市立病院の医療情報の提供】 ○ 平成29年4月からひろしま医療情報ネットワークに開示病院として参加し、約1,000の医療機関（令和3年3月31日時点）、薬局等と連携して診療情報の共有化を図った。	3	年度計画を順調に実施しているため、「3」と評価した。	3																

第1 市民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する目標を達成するためとるべき措置

6 保健、医療、福祉、教育に係る行政分野への協力

中期目標	本市が実施する保健、医療、福祉、教育などの施策に協力するとともに、市行政全般との連携に努めること。				
中期計画	令和2年度	地方独立行政法人広島市立病院機構による自己評価		市長による評価	
	年度計画	評価理由等	記号	評価理由・コメント等	記号
6 保健、医療、福祉、教育に係る行政分野への協力（大項目）	6 保健、医療、福祉、教育に係る行政分野への協力（大項目）				
保健、医療、福祉、教育に係る行政分野への協力については、引き続き、広島市の担当する部局との連携を維持し、広島市が実施する保健や医療、福祉、教育に係る施策に協力します。	<ul style="list-style-type: none"> ・広島市が実施する保健、医療、福祉、教育施策への協力 ・広島市の保健医療福祉担当部局との情報共有及び調整 ・重症心身障害児（者）医療型短期入所事業の継続実施（舟入市民病院） ・自殺未遂者支援窓口と医療機関等との連携（広島市民病院・安佐市民病院） 	<p>【広島市が実施する保健、医療、福祉、教育施策への協力】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 広島市立看護専門学校の講師としての医師及び看護師の派遣、広島市立特別支援学校の修学旅行への医師同行派遣等を行った。 <p>【保健医療福祉担当部局との情報共有等】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 広島市の保健医療福祉担当部局との情報共有及び調整に係る業務について、本部事務局に一元化し、各病院に対して適宜、適切な情報提供を行うとともに、法人内の調整を行った。 <p>【重症心身障害児（者）医療型短期入所事業の継続実施】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 医療型重症心身障害児（者）の短期入所利用者は延べ 250 人であった。新型コロナウイルス感染症に関連する患者を受け入れるために、令和 2 年 3 月 7 日～6 月 30 日及び令和 2 年 12 月 10 日～令和 3 年 3 月 31 日の間はレスパイトの受入れを中止したことにより、利用者は令和元年度に比べて延べ 285 人減少した。 <p>【自殺未遂者支援窓口と医療機関等との連携】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 広島市民病院では、広島市が進める自殺未遂者の自殺再企図防止支援事業への協力を継続するとともに、弁護士会「自死ハイリスク者のための支援事業」にも協力し自殺再企図防止に取り組んだ。 ○ 安佐市民病院では、広島市からの委託を受け、平成 30 年 4 月から自殺未遂者支援コーディネーターを配置して支援体制を構築し、引き続き、「自傷患者への早期介入を行う」ことを目標として支援を行うとともに、月 1 回、市の担当部署（精神保健福祉センター）や他の病院（広島市民病院等）のコーディネーターとともに会議を行い、支援内容の実施報告や課題等について協議を実施した。 	2	新型コロナウイルス感染症の影響により、一部の取組を中止したこと等を除いて、がん教育出前授業を中学校や高校で行うなど、年度計画を順調に実施していると認められるため、「3」と評価した。	3

中期計画	令和2年度	地方独立行政法人広島市立病院機構による自己評価		市長による評価	
	年度計画	評価理由等	記号	評価理由・コメント等	記号
	<ul style="list-style-type: none"> ・中学生を対象としたがん教育の実施（広島市民病院・安佐市民病院） 	<p>【中学生を対象としたがん教育の実施】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 広島市民病院では、「がん教育出前授業」として、市立中学校 5 校において、広島県第 3 次がん対策推進計画の学校教育におけるがん教育の実践及び学校保健計画のがん教育に沿った講義を実施した。 ○ 安佐市民病院では、安佐北区内 6 中学校に対して、「安佐市民病院によるがん教育出前授業」を開催した。 <p>また、安芸高田市 1 校の高校に対しても同様の出前授業を開催した。</p>			